

「朝鮮学報」第188輯 別刷  
平成15年7月刊

2003

日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と  
韓国語の動詞志向構造(verb-oriented structure)

金 恩 愛

# 日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と 韓国語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)

金 恩 愛

**【要旨】** 한국어와 일본어를 비교해 볼 때, 동일한 언어장 내에서 거의 동일한 의미를 나타내는 경우에도, 일본어는 명사를 지향하는 구조가 상대적으로 많은 반면, 한국어는 상대적으로 동사 중심의 구조가 두드러진다. 또한 한국어에는 일본어의 명사구조에 대응하는 명사구조가 원래 존재하지 않는 경우도 많다:

雨の日に会っためがねの子覚えてる?

비 오던 날 만났던 안경 낀 애 기억나?

なんか探し物?—うん, 忘れ物.

뭐, 찾는 거야?—응, 뭐 좀 잊어버려서.

본고에서는 일본어와 한국어에 존재하는 이와 같은 표현양상의 차이에 대해, (1) 문장 성분, (2) 명사적인 명사, 동사적인 명사, 형용사적인 명사, 부사적인 명사 등 명사의 하위범주, (3) 어휘적 의미의 비중이라는 측면에서 바라본 경명사와 중명사 등 이상의 3 가지 축을 중심으로, 일정량의 언어계량을 시도한다. 이를 통해 일본어의 명사지향구조는 어떠한 것인지, 그리고 어떤 메카니즘을 통해 그에 대응하는 한국어의 동사지향구조가 실현되는지를 고찰했다. 일본어의 어떤 성질의 명사가, 어떤 구조 안에서, 어떤 기능을 담당할 때, 한국어에서 동사구조로 나타나는가를 볼 때, 그 유형은 다음 5 가지로 분류할 수 있다:

1. 어휘적 대응이 이루어지지 않는 일본어의 경명사를 한국어에서 동사나 형용사 등의 용언을 이용하여, 2 단어 이상의 분석적인 형태로 표현함으로써 야기되는 동사구조.
2. 일본어의 파생명사나 복합명사와 같은 중명사구조가 한국어에는 없거나 대응이 이루어지지 않아 야기되는 동사구조.

3. 어휘적으로는 대응하는 명사가 한국어에도 존재하지만, 새로운 단어 결합을 이룰 때, 대응하는 단어 결합이 존재하지 않거나 대응이 이루어지지 않음으로써 야기되는 동사구조.
4. 일본어의 명사중지문, 지정사중지문, 술어 없는 문장 등 문장 차원의 불일치로 야기되는 동사구조.
5. 텍스트·디스크스 등 언어장과 관계되는 일본어의 비명시적인 요소를 한국어가 언어화하고자 함으로써 야기되는 동사구조.

일본어 명사구조가 한국어에서 동사구조화되는 변용의 유형으로는 (1)일본어의 명시적인 요소를 한국어에서 다른 형태의 명시적인 요소로 표현하는 경우, (2)일본어의 비명시적인 요소를 한국어에서 명시적인 요소로 표현하는 경우의 2가지 변용 유형이 존재한다. 위의 1-2는 어휘 층위, 3은 단어결합 층위, 4는 문장 층위, 5는 텍스트·디스크스 층위에서 이러한 변용이 일어난 것이다.

## 目 次

- |  |   |
|--|---|
| 1.はじめに                                     | 3.1. 言語を対照するということ                             |
| 1.1. 研究の目的                                 | 3.2. 名詞を文の成分ごとに見るとい                           |
| 1.2. 先行研究                                  | うこと   |
| 2. 名詞をめぐるいくつかの前提                           | 3.3. 言語資料                                     |
| 2.1. 名詞的なもの                                | 3.4. テクストの調査                                  |
| 2.2. いわゆる形容動詞について<br>—形容詞的な名詞              | 4. 主語における名詞構造と動詞構造                            |
| 2.3. 動名詞 (verbal noun) について<br>—動詞的な名詞     | 4.0. 最も名詞らしい姿としての主語<br>に対応する韓国語の名詞構造と<br>動詞構造 |
| 2.4. 名詞的なふるまいをする副詞<br>—副詞的な名詞              | 4.1. 主語となった名詞的な名詞                             |
| 2.5. 本稿における名詞 (体言) の範疇                     | 4.2. 主語となった形容詞的な名詞                            |
| 2.6. 重名詞 (heavy noun) と軽名詞<br>(light noun) | 4.3. 主語となった動詞的な名詞                             |
| 3. 研究の方法                                   | 4.4. 主語となった副詞的な名詞                             |
|  | 5. 目的語における名詞構造と動詞構造                           |
|  | 5.0. 目的語における日本語の名詞構造                          |

- |                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 造と韓国語の動詞構造                    | 6.4. 修飾語となった副詞的な名詞           |
| 5.1. 目的語となった名詞的な名詞            | 7. 述語における名詞構造と動詞構造           |
| 5.2. 目的語となった形容詞的な名詞           | 7.0. 名詞文の類型                  |
| 5.3. 目的語となった動詞的な名詞            | 7.1. 指定詞終止文                  |
| 5.4. 目的語となった副詞的な名詞            | 7.2. 終助詞名詞終止文                |
| 6. 修飾語における名詞構造と動詞構造           | 7.3. 名詞終止文                   |
| 6.0. 修飾語における日本語の名詞構造と韓国語の動詞構造 | 7.4. 日本語の〈名詞終止文〉に対する韓国語の表現様相 |
| 6.1. 修飾語となった名詞的な名詞            | 8. おわりに                      |
| 6.2. 修飾語となった形容詞的な名詞           | 8.1. 名詞志向構造と動詞志向構造           |
| 6.3. 修飾語となった動詞的な名詞            | 8.2. 今後の課題                   |

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の目的

日本語と韓国語は、統辞論的な構造がよく似ているにもかかわらず、実はそれぞれの言語の精緻な「その言語らしさ」が互いに対峙している。日本語と韓国語の表現を対照してみよう：

雨の日に会っためがねの子覚えてる？

비 오던 날 만났던 안경 낀 애 기억나？

(lit. 雨降っていた日会っためがねかけた子記憶出る？)

なんか探し物？——うん、忘れ物。

뭐, 찾는 거야？—응, 뭐 좀 잊어버려서.

(lit. 何探すの？—うん、何ちょっと忘れてしまって)

「雨の」や「めがねの」のように日本語では実詞として名詞しか現れていない表現に対して、韓国語では비(雨), 안경(めがね)という名詞の

ほかに「비 오던」「안경 낀」のごとく動詞오다(降る), 끼다(かける)が現れている。「비(의) 날」(lit. 雨の日)や「안경(의) 에」(lit. めがねの子)が韓国語として成立しがたいことに異論はなからう。また「探し物」や「忘れ物」という合成名詞も、韓国語では例えば「뭐, 찾는 거야」(lit. 何探すの?)や「뭐 좀 잊어버려서」(lit. 何ちよっと忘れてしまって)のように, 찾다(探す)や잊어버리다(忘れる)のような動詞によって支えられる表現として現れうるであろう。本稿では, 下線を付した左の日本語の例のように, 名詞を中心として成り立っている構造を「名詞構造」と呼び, 下線を付した右の韓国語のように, 用言が支えている構造を, 「動詞構造」と呼ぶことにする。

日本語と韓国語は統辞論的な構造が酷似しているにもかかわらず, 実際には上の例のように, しばしば名詞構造と動詞構造といった違いが現れる。本稿の目的は, 日本語と韓国語の文章(テキスト)や談話(ディスコース)における, 名詞志向の構造(nominal-oriented structure)と動詞志向の構造(verbally-oriented structure)<sup>(1)</sup>との表現様相<sup>(2)</sup>の対比を素描する中で, 日本語のどのような性質の名詞が, いったいいかなる構造において, いかなる機能を司るときに, 韓国語にあっては動詞構造化するのか, そのメカニズムを描くことにある。

本稿は同時に対照研究の方法論的な提起でもある。単なる形態的な対照であることを超えて, ある特定の「言語場」<sup>(3)</sup>が与えられたとき, それぞれの言語が, 表現のいかなるあり方を選択するかという, 表現様相の対照を目指すものである。

## 1.2. 先行研究

日本語と韓国語の違いについて, つとに梅田博之(1982a:35)は「좋은 날씨다。」(lit. いい天気だ)よりは韓国語では「날씨가 좋다。」(lit. 天気がいい)という構造の方がより自然であるという指摘を行っているが, こうした問題の研究はその後現れず, 日本語と韓国語の対照研究は, 서울대학교語學研究所(1988)をはじめ, 数多くあるものの, 形態論的な対照に終始しがちであった。その中で, 林八龍(1995)は, 日本語と韓

国語における「表現構造」に着目した点で、日韓対照研究の幅を拡大した、極めて新鮮なものである。同論文は、日本語と韓国語における表現構造上の大きな特徴として、「能動表現と受動表現」と共に「日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現」を指摘したという点でも、先駆的な研究である。他に宋美玲(1995)に名詞表現と動詞表現についての言及がある。また、生越直樹(2002)は、日本語と韓国語における「きれいな花!」タイプの連体修飾表現について論じている。

これらの先行諸研究は、日本語における名詞表現と韓国語の動詞表現の存在についての指摘はあるものの、そうした表現様相の差異をもたらすメカニズムについての究明までには至っていない。さらに、現に問題となる対象の全てを尽くしているのか、あるいはそうでないにしても大部分を包括しているのかという、全体性、網羅性という観点から見て、大きな弱点を持つ。対象の捉え方も決して体系的なものとなりきっていない。<sup>(5)</sup>また、それぞれ用いられた言語資料を見る限り、生きた言語の様相を捉えたとは言い難い。<sup>(6)</sup>つまり表現様相の差異をもたらすメカニズムを解明するために、名詞表現と動詞表現をめぐる研究は、①対象の全体性、②把握の体系的性、③資料の現実性、という3つの点で、今後の研究の深化が問われているといえよう。

## 2. 名詞をめぐるいくつかの前提

### 2.1. 名詞的なるもの

名詞志向構造とはいかなるものかを議論するにあたって、まず、そもそも「名詞的なるもの」がいったいかなるものかを踏まえることは、日本語の名詞構造が韓国語でなぜ動詞構造化すのかというメカニズムを解明する、今後の考察の核心を提供してくれる作業ともなりえよう。

日本語の名詞については、山田孝雄(1908, 1936)、松下大三郎(1928, 1930)、橋本進吉(1934)、時枝誠記(1950)、三上章(1955)、渡辺実(1971)、鈴木重幸(1972)、寺村秀夫(1982)などが様々に論じている。これらにおける名詞の規定の違いは、安田喜代門(1928; 1979: 173)も言うように、「内容外形職能」という品詞分類の3つの基準、つまり「意

味」と「形態」と「機能」のうち、何を優先するかによるものであろう。本稿では、名詞に関する諸家の考え方を参考に、概ね、①事物の名を表わす単語、②活用しない単語、③主語となりうる単語、という3つを「名詞的なもの」の特徴として考えておく。名詞を名詞たらしめる性質としてあげたこうした性質が、強ければ強いほど、名詞性が際立ってくると思えることができよう。また、本稿では、①-③の、意味的な基準、形態的な基準、機能的な基準のうち、最も客観的に判断しやすい形態的な基準をまず優先させ、形態的に名詞的な性格を示す単語については、可能な限り対象として俎上にあげることとする。

## 2.2. いわゆる形容動詞について——形容詞的な名詞

さて日本語の名詞の範疇を画定するうえで、一番の論争を呼び起こしたのは、いわゆる形容動詞の問題であろう。ここで諸家の考え方を整理しておく：

【表1】いわゆる「形容動詞」に関する考え方

	独立した品詞として認める立場		独立した品詞として認めない立場	
「動詞(用言)性」 に注目した文法家	橋本進吉(1934)	形容動詞	三尾 砂(1942)	形容詞(ナ形容詞)
			三上 章(1955)	形容詞(ナ活用)
			鈴木重幸(1972)	第二形容詞
「名詞(体言)性」 に注目した文法家	渡辺 実(1971)	扶名詞	時枝誠記(1950)	名詞(体言)
	寺村秀夫(1982)	名詞的形容詞		
	影山太郎 (1989, 1993)	形容名詞		

これら文法家の議論から、いわゆる形容動詞の語幹の特徴は、①形態的には、活用しないなど、名詞とほとんど変わらない、②機能的には、主語になり得るが、名詞に比べ、制約されやすい、③意味的には、形容詞的な性質を有する、という3つに集約できよう。

いわゆる形容動詞を一つの品詞として認めるにせよ、認めないにせよ、またどのような名づけをするにせよ、諸家が注目するごとく、形容動詞が名詞的な特徴と形容詞的な特徴をあわせ持っていること、即ち、「名詞的な性質」を持っていることは否定できぬ事実であろう。本稿では、形

態論的な側面を最優先し、いわゆる形容動詞における「名詞的な性質」を積極的に受け入れ、形容動詞の語幹を名詞と見做しておくと共に、形容動詞における形容詞的な性質をも反映させ、「形容詞的な名詞」と名付け、他の典型的な名詞を「名詞的な名詞」と呼び、それぞれ区別して名詞の下位範疇とする。なお、形容詞的な名詞は、形容詞からの派生名詞、例えば、「美しさ」「良さ」などをも含むものとする。

### 2.3. 動名詞 (verbal noun) について——動詞的な名詞

Martin (1975)、影山太郎 (1989, 1993) は、「する」を伴って動詞化する、「散歩、研究、活動」などの漢語、「立ち読み、山登り、買物」などの和語および「テスト、プリント」などの洋語を、動名詞 (verbal noun) と呼んでいる。本稿ではこれに倣い、先に言及した「名詞的な名詞」、「形容詞的な名詞」と共に、これらの名詞を名詞の今一つの下位範疇として位置づけ、「動詞的な名詞」と呼ぶこととする。動詞的な名詞は、形態的には名詞の形をとるが、意味的には動詞的な性質が甚だしい語類である。これは形容詞的な名詞が、形態的には名詞の形をとるが、意味的には形容詞的な性質が強いのと似ている。

### 2.4. 名詞的なふるまいをする副詞——副詞的な名詞

いわゆる副詞のなかには、名詞のように働く例が散見される。松下大三郎 (1930; 1977: 65) は、「躊躇することは無い。直ぐが善い。」<sup>(7)</sup>「そう一度には出来ない。それはまたが善からう。」といった「直ぐ」「また」のように、「副詞の筈で始まり名詞として終わるもの」を「副詞性名詞」と呼んでいる。これに加えて「またのお越しをお待ちしております」「せつかくの日曜日」「かなりの力作」といった例などをはじめ、いわゆる副詞が主語、目的語、連体修飾語、述語として名詞のように機能しているものを、本稿では試みに「副詞的な名詞」と呼び、名詞の今一つの下位範疇とする。

以上のような「名詞的な名詞」、「動詞的な名詞」、「形容詞的な名詞」、「副詞的な名詞」という名詞の性質から見た下位範疇に注目することによ



り、単に「名詞」というような大きな括り方ではなく、基準となる日本語の、いったいどのような性質の名詞が、対照される韓国語においてそれぞれどのような構造を見せるのかを、さらに精緻に分け入ってみることができよう。

### 2.5. 本稿における名詞（体言）の範疇

一方、語構成は、本稿の分析にしばしば大きな関わりを持つ。語構成という観点を加えた、本稿における日本語の名詞（体言）の下位範疇は次のごとくである：

【表2】語構成の観点を加味した本稿における名詞（体言）の下位範疇

名詞（体言）	単 純 語	合 成 語	
		派 生 語	複 合 語
名詞的な名詞	雨, 顔, 鈴木, 私, だれ	食事中, 私たち, 小顔	青空, 年上, 待ち時間
形容詞的な名詞	元気, 奇麗, ぎりぎり	無縁, 不要, 白さ, なし	買物上手, ほめ上手
動詞的な名詞	煽り, 思い, 約束, 仕事	言い方, 探し物, ご存知	恩返し, お姉さん思い
副詞的な名詞	まだ, あまり, せっかく		

### 2.6. 重名詞（heavy noun）と軽名詞（light noun）

さて、名詞という同じ品詞の範疇に属しても、「めがね」、「時計」などのような具体的な事物を表わす単純な名詞と、「お姉さん思い」や「返信用葉書付き夏おしゃれアンケート」などといった一連の概念が盛り込まれた名詞とは、明らかに違う性質を有している。このことは、日本語と韓国語を対照したとき、実際の文の中で表現様相の違いとしても現れうる：

- 複合名詞：〈お姉さん思い〉ですね。 누나 생각 참 많이 하네요.  
 〈勉強不足〉です。 공부를 별로 못 했어요.
- 派生名詞：すごい〈飲みっぷり〉だね。 대개 잘 먹네.  
 長居は〈無用〉だな。 오래 있어 봤자 소용 없겠군.
- 単語結合<sup>(8)</sup>：〈薬の無くなり〉が早い。 약이 금방 떨어져.  
 〈きれいな目〉をしている。 눈이 참 예쁘다.  
 〈すごい可愛い靴〉。 신발 정말 예쁘다.

「お姉さん思い」「勉強不足」といった複合名詞や、「飲みっぷり」「無用」といった派生名詞は、韓国語において複数の単語で分析的に現れているのを見ても窺えるように、「めがね」「時計」といった名詞に比べ、名詞が受け持つ語彙的な意味が重層化され、いわば相対的に「重い」といえよう。本稿では、語彙的な意味が重層化され、語彙的な意味の比重が相対的に重い名詞を「重名詞 (heavy noun)」と呼び、逆に、単純語で、相対的に語彙的な意味の比重が軽い名詞を、「軽名詞 (light noun)」と名付けることとする。複合名詞や派生名詞といった単語のレベル、即ち語彙レベルのみならず、単語結合のレベル、いわゆる名詞句のレベル、場合によっては名詞節といった節のレベル、こうした種々の異なった階層の単位を、いわば縦に包括しうる概念として重名詞というカテゴリーを設定すると、名詞構造の動詞構造化をはじめ、対照研究の観点から言語事実を考察するのに裨益する所が大きいであろう：

【表3】重名詞と軽名詞

重名詞 (heavy noun)	複合名詞や派生名詞、修飾語を伴った名詞など、語彙的な意味が重層化され、意味的な比重が相対的に重い名詞。 1 単語からなる重名詞：うりざね顔、会社勤め、言い方、忘れ物 名詞とそれ以外の要素からなる重名詞：ソウルから、昨日まで 2 単語以上からなる重名詞：奇麗な目、空の美しさ、洗濯機の乾き
軽名詞 (light noun)	単純語からなる、語彙的な意味の重層化が行われない名詞。 雨、めがね、ノート

語構成上の単純語は基本的に軽名詞である。日本語、韓国語を問わず、修飾する成分を多く伴っているほど、一般により重い名詞ということになる。2単語以上からなる重名詞は、重名詞句といってもよい。なお、面白いことに、重名詞と用言が結合するとき、名詞が重くなればなるほど、それに反比例して、用言の役割は軽くなる。そうした場合に用言はしばしば機能用言化<sup>(9)</sup>する：

重名詞 (heavy noun) + 機能用言 (function verb ≒ light verb)

[누나 생각]을 해요. (lit.) [お姉さんの思い] をします。

軽名詞 (light noun) + 実質用言 (meaning verb)

[누나]를 생각해요. (lit.) [お姉さん] を 생각합니다。

もし日本語の「だ」も用言の一つと見うるならば、<sup>(10)</sup>「[お姉さん思い]です」のような構造も「重名詞+機能用言」の構造だと見ることができよう。

こうして、名詞的な名詞、形容詞的な名詞、動詞的な名詞、副詞的な名詞といった名詞の下位範疇と並んで、語彙的な意味の単層性、複層性といった、名詞への語彙的な意味の負荷の観点から見た軽名詞と重名詞の概念、さらに実質用言と機能用言といった概念もまた、本稿の考察の重要なデバイスとして確認しておきたい。

### 3. 研究の方法

#### 3.1. 言語を対照するということ

##### 3.1.1. 基準言語と対照言語

さて、AとBという2つの言語を対照するには、A言語を基準言語としてB言語を見る方法と、AB両言語を双方向に見る2つの方法がある。後者の方法は混乱を招きやすいため、本稿ではまず日本語を基準言語とし、<sup>(11)</sup>韓国語を見てゆく。基準言語から照らす言語を、本稿では「対照言語」と呼ぶことにする。

##### 3.1.2. 日本語の名詞とそれに対応する韓国語の様相

基準言語である日本語の名詞から、対照言語である韓国語を照らしたとき、単語のレベルにおける対照のあり方は、次の3つのグループに分類しうる：

- (1) 存在グループ：日本語の名詞に対し、韓国語でも名詞の形で対応するもの  
めがね：안경
- (2) ずれグループ：日本語の名詞に対し、いつも名詞の形で対応するとは限らないもの  
減り：줄어듬, 줄어들기
- (3) 非在グループ：日本語の名詞に対し、単一の名詞の形では対応し

きれないもの

猫舌：(なし), 辛口：(なし)

既存の対照研究では、しばしば(2)ずれグループと(3)非在グループに関心を抱く傾向があったと思われるが、単語結合のレベル、さらに文レベル、テキスト／ディスコースのレベルとなると、本稿で後に明らかになるように、例えば「めがね」や「雨」といった、(1)の存在グループの名詞でさえ、日本語と韓国語の対応は崩れ、多様な表現様相で現れる。本稿は日本語と韓国語にあって、(1)(2)(3)3つのグループがいかなる様相で現れるかという、常に全体の中における対照を目指すものである。

### 3.1.3. 語彙項目としての単語とテキスト／ディスコースの中の単語

本稿は Lexikon の item 即ち、語彙項目としての単語だけを対照するものではない。考察の基本となる対象は、テキストやディスコースの中で、文の形で実現している単語である：

【表4】語彙項目としての単語と文の中での実現体としての単語

	日本語 (基準言語)	韓国語 (対照言語)
Lexikon の item としての単語	歩き	걷기. (걸음)
文中の実現体としての単語	今日も歩き?—うん, 歩き。	오늘도 걸어가?—응, 걸어가.

「歩き」という名詞に対して、걷기や걸음という名詞が存在するかしないかといった、語彙項目の対照は、対照研究の重要な一部ではあるが、対照すべき全体から見れば、どこまでもそれは一部にすぎない。従来の対照研究はともすれば、こうした対照に終始するきらいがあったことは否めまい。同じ「歩き」という単語であっても、それが Lexikon の item としての単語「歩き」なのか、文の中における実現体としての「歩き」かにより、対照言語たる韓国語における対応物は異なってくるのである。

また、日本語の名詞を基準にして対照言語での表現を検討すると、対照言語である韓国語では、①名詞構造化するもの、②動詞構造化するもの、③そのいずれもありうるもの、という3つの場合がある。本稿では主として②と、③のうち動詞構造化する場合、即ち、動詞構造化しうる

ものを中心に論じるわけである。議論の過程で③の用例を示す場合に、名詞構造化する場合の韓国語の用例は、最低限必要な場合にのみ付すことにする。

なお、本稿は、単語を核にしながらも、基本的には文 (sentence) を単位に考察するが、その文とは、あくまでもテキストやディスコースの中に存在している文である。その文の考察は、語彙論から形態論のみならず、統辞論へ、さらにはしばしばテキスト／ディスコース論の領域にまで踏み出すことになる。また、2言語間の対照において、基準言語における1単語への相応物を対照言語において1単語で見出しうるとは限らないと同様、基準言語の1文の相応物を常に対照言語の1文に求めうるとは限らない。本稿で言う表現様相という考え方は、基準言語は1文で表現するところを、対照言語では複数の文が担当するようなことまでも想定するものである。

### 3.2. 名詞を文の成分ごとに見るということ

検討にあたっては、名詞を単に恣意的な観点から見るのではなく、文のいかなる成分として名詞がふるまうかに注目し、次の4つの場合に分けて構造的に類型化し、考察してゆくことにする：

- 1) 「主語としての名詞」を核とした名詞構造：雨が降る。
- 2) 「目的語としての名詞」を核とした名詞構造：雨をよける
- 3) 「修飾語としての名詞」を核とした名詞構造：雨の日曜日。
- 4) 「述語としての名詞」を核とした名詞構造：外は雨だ。今日も雨。

例えば、副詞的な名詞「せっかく」は、「せっかくの日曜日」「せっかくだから」のように修飾語や述語ではしばしば現れても、主語や目的語の「せっかくが」「せっかくを」は実際のテキストにはまず現れない。形容詞的な名詞「無用」や「不要」もまた、主語や目的語ではほとんど現れない。一般に、同じ名詞が常にどの文の成分でも同じように用いられるというわけではなく、名詞の出現はしばしば文成分ごとの偏差を見せ

るのである。また、主語に立った名詞「雨が」は、対照言語において「비가」(lit. 雨が)という名詞構造を維持していても、述語に用いられた「雨。」は「비。」ではなく、例えば「비가 와。」(lit. 雨が降る)のごとく動詞構造化して現れるかもしれない。このように同じ名詞であっても、文の成分ごとに、対照言語においては異なった構造を見せることがあり得るであろう。さらに基準言語の目的語が対照言語では主語で現れるといったような、名詞の統辞論的な構造の変容については、文の成分を抜きにして語ることはできない。そして「せっかく」という単語が対照言語で何に相当するかというような、単語の語彙項目としてのみの対照ではなく、テキスト／ディスコースの中で実現している単語に注目するためには、文の成分に注目しないわけにはゆくまい。全ての名詞は文の成分という機能を背負ってテキスト／ディスコースの中に現れるからである。

①名詞の出現が文の成分ごとに偏差を見せること、②基準言語の文の成分ごとに対照言語では異なって現れる場合があることが予想されること、③名詞をめぐる2言語間の統辞論的な構造の変容が文の成分に決定的にかかわっていること、④テキスト／ディスコースの中で実現している単語は、すべからく文の成分の中で実現していること——こうしたことから、本稿では対象とする全ての名詞を、基準言語の文の成分ごとに検討することにする。名詞を文の成分ごとに見るとは、即ち名詞を統辞論的な構造のうちで見るということに他ならない。先行研究ではなされなかった、文の成分ごとのこうした検討によって、名詞が文の成分としていかなる機能を司るときに、日本語の名詞構造が韓国語において動詞構造化するのかという問題への、より体系的、構造的な接近と、より精緻な対照言語学的な分析が可能になるであろう。

### 3.3. 言語資料

対照研究は、各言語のなかで最もその言語らしい、自然でかつ豊富な言語資料から始まるものであり、言語資料の位置づけは極めて重要である。本稿の対象をテキスト類型ごとに見ると、概ね次のように位置づけ

うるであろう：

【表5】本稿が対象とするテキスト類型

資料類型	文 <sup>(12)</sup> 体	主要テキスト類型
話された言語	会話体	日常会話、講義、対談、座談会など
	擬似会話体	ドラマ、映画など
書かれた言語	擬似会話体	小説の会話文、シナリオなど
	文章体	小説の地の文、エッセイ、新聞報道、広告文など

本研究の基準言語たる日本語の言語資料としては、小説、シナリオなど、文字で書かれたテキストを調査した。公刊されている書籍を主としたが、必要に応じてデジタルデータも使用した。一方で、聞き書きによるもの、例えば電車での会話、図書館ロビーでの会話、学校の食堂や喫茶店、ファミリーレストラン、電話の会話、大学の講義といったものなど、実際のディスコースから収集したものにも重点を置いた。話されたことばについては、聞き書きに拠っている。

韓国語資料としては、上の日本語のテキストのうち、公刊されている韓国語への翻訳を検討した。翻訳というテキストは、原文に何らかの影響を被ることを免れないという限界を踏まえた上で考察するものである。また本稿でテキストを韓国語に訳して検討することも行った。検証のために、韓国語で書き下ろされた小説のテキストも必要に応じて調査した。デジタルデータも必要に応じて使用した。

日本語テキストの選択にあたっては、ノム [野間秀樹] (2002a:17-18) を参考に、①東京生まれの作家による作品、②1990年以後の作品、③現代を背景にした作品、④テキストに東京以外の方言が著しく混在していない作品、という、4つの原則に基づいた。また、一定量のテキストを走査するにあたっては、同じ作家のテキストを大量に採ることは避け、より多くの作家のテキストを対象とした。作家による個人差という要因を少しでも抑えるためである。

全ての資料は、本稿末尾に示す。本稿の記述に必要な用例は、煩瑣にならぬ限りにおいて、日本語、韓国語訳とも、略号によって出典とページを明示する。出典のないものは作例である。日本語、韓国語、いずれ

(13)  
の作例に関しても母語話者の確認を得た。

### 3.4. テキストの調査

さて、言語事実の調査するにあたって、本稿では、①用例を収集しつづ計量に用いるテキスト、②用例の収集のみに利用したテキスト／ディスクコース、という2種類を区別した。

計量に当たっては、まず、基準言語たる日本語のテキストにおいて名詞構造で現れる例をもれなく走査し、翻訳書において、それらに相当する韓国語の表現様相を調査、類型化した。こうした調査で主観性に偏る危険を避けるために、基準言語である日本語の原テキストの、既に公刊された韓国語の翻訳書があるものについて走査した。テキストは、上述の原則にかなう、日本語の現代作家の作品から、一つの作品あたり、作品の冒頭から100文を全例、走査した。また、計量に用いたテキスト以外に、先に述べた様々なテキスト類型から、韓国語において動詞構造化して現れる例を収集し、類型化した。

翻訳書のあるテキストの計量調査に使用した資料と、文の成分ごとの名詞の数は次のとおりである：

【表6】テキストの計量調査に使用した日本語の言語資料における文の成分ごとの名詞の出現数

言語資料	主語	目的語	修飾語	述 語			小計
				指定詞終止文	終助詞終止文	名詞終止文	
江國 香織 (1994)	22	50	47	22	0	5	146
小池真理子 (1999)	68	74	88	33	0	5	268
篠田 節子 (1997)	37	47	84	19	0	0	187
辻 仁成 (1999)	47	53	70	15	0	10	195
吉本ばなな (1996)	45	27	43	12	0	5	132
小 計	219	251	332	101	0	25	928

## 4. 主語における名詞構造と動詞構造

### 4.0. 最も名詞らしい姿としての主語に対応する韓国語の名詞構造と動詞構造

4章から7章までは日本語の名詞構造が韓国語ではいかなる構造を見



せるかを、文の成分ごとに考察してゆく。2章でも確認した通り、ある単語が主語となるかどうかは、まさに名詞を規定する根本条件の一つであった。つまり主語として用いられた名詞は、いわば最も名詞らしい姿を現す存在である。そこでまずこの類型から検討を始めることにする。以下、各章の細目は、名詞的な名詞、形容詞的な名詞…といった、本稿での名詞の下位分類ごとに、それぞれ考察してゆくことにする。

日本語の名詞が、韓国語への翻訳書で名詞志向構造、動詞志向構造のいずれで現れるのかの計量結果から見てみよう：

【表7】主語における日本語の名詞構造に対応する  
韓国語の名詞構造と動詞構造（単位：例）

日本語の名詞構造	名詞的な名詞	形容詞的な名詞	動詞的な名詞	副詞的な名詞	計	
	202	4	11	2	219	100.0%
韓国語の名詞構造	184 91.1%	3 75.0%	9 81.8%	2 100.0%	198	90.4%
韓国語の動詞構造	18 8.9%	1 25.0%	2 18.2%	0 0.0%	21	9.6%

(14)

「何が—どうする」という構造にあつて、主語という文の成分は、ある対象を、曖昧でない明確な輪郭の中に指定する性格が強いであろう。例えば事物の名称のようにである。したがって、統辞構造が酷似しているのであるならば、主語という文成分は、日本語と韓国語のいずれでも名詞の形で現れてしかるべき文の成分だと言わねばならない。にもかかわらず、上の表でわかるように、例えば調査した翻訳書では、日本語の219例の名詞構造のうち、21例、9.6%が、主語にあつてさえ、韓国語では動詞構造で現れている。先行研究ではほとんど省みられていないが、これは注目すべきことであろう。そもそも日本語の名詞に該当する名詞が、韓国語に存在しなければ、つまり3.1.2で述べた「非在グループ」であれば、韓国語では当該の名詞をしばしば記述的に表現せざるを得ないので、動詞構造で現れる確率が高い。しかし相当する名詞が存在する場合に、つまり「存在グループ」であっても、名詞構造が韓国語では動詞構造化している。ではいかなるメカニズムでこうしたことが起こるのだろうか。以下、主語における動詞構造化の類型を見てゆこう。

以下の用例中、〈 〉は問題としている名詞構造を示す。「→」は、日本語から韓国語への対応関係を示す。韓国語の動詞構造は、下線で示し、日本語の直訳 (lit.) を付す。なお、韓国語で動詞構造となる表現だけを示すのではなく、必要に応じて、名詞構造の表現も併記する。出典は必要に応じ略して表記する。

#### 4.1. 主語となった名詞的な名詞

文中で主語として用いられる名詞のうち、いわば最も名詞らしい名詞である名詞的な名詞でさえ、202例中、18例、8.9%は韓国語の翻訳書では動詞構造で現れている。以下、動詞構造化の類型を見よう。

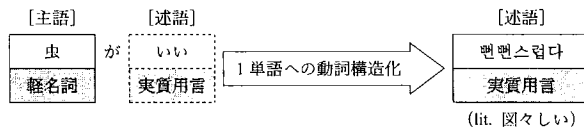
##### 4.1.1. 主語となった名詞的な軽名詞

主語においては、日本語の「名詞的な軽名詞+が+用言」の形の単語結合<sup>(15)</sup>をなす構造が、韓国語への対応において動詞構造化を引き起こす大きな要因の一つとなっている：

ねえ、ちょっと、〈虫が〉よすぎるんじゃない！（聞き書き）

야, 너 좀 너무 뻔뻔스러운 것 아냐!

(lit. 図々しい)



【図1】 名詞的な軽名詞が新たな単語結合をなすとき、その対応がもたらす動詞構造化 1

語彙的に対応する名詞が存在していても、つまり、単語レベルでは、「存在グループ」の対応を見せても、当該の名詞が後ろの用言と単語結合を成し、新たな意味を獲得しているとき、韓国語ではしばしば動詞構造化するわけである。こうしたタイプは、単語結合による新たな意味の生産に動詞構造化の原因を探ることができよう。特定の単語結合が「虫が

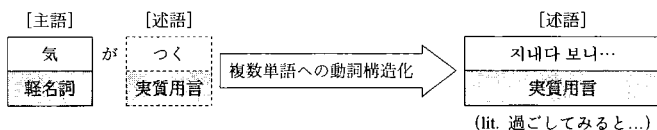
いい」のようにいわゆる慣用句化する場合には、これが顕著である。さらに進んで、一単語化しえず、分析的な表現様相をもたらすものも多い:

マーヴは教会が好きじゃないので、それも〈都合が〉いいと思った。  
(冷静とR/37)

마빈은 교회를 좋아하지 않으니, 그것도 잘 됐다 싶었다. (냉정과R/34-35)  
(lit. それもよくなった思った)

悪口も言われぬわりに話題にも上がらず、〈気が〉ついたら三十を過ぎていた。(女たち/12)

육을 먹는 경우도 없었지만 특별히 화제에 오르는 일도 없이 지내다 보니, 어느 틈에 서론이 넘어 버렸다. (여자들/12)  
(lit. 過ごしてみるといつの間にか)



【図2】名詞的な軽名詞が新たな単語結合をなすとき、その対応がもたらす動詞構造化 2

「軽名詞+が」が単語結合をなすときに、韓国語で動詞構造化することが多いことは、逆に、実はこうした日本語の「虫が(いい)」「気が(つく)」などに見える「軽名詞+が」は、純粹ないわゆる主語の枠でおさまらない存在であることの現れかもしれない。これらは、単語としては存在グループに属するが、単語結合においては非在グループに属することになる。

#### 4.1.2. 主語となった名詞的な重名詞

##### 4.1.2.1. 1単語からなる名詞的な重名詞

名詞的な名詞が韓国語では動詞構造化する大きな原因として、日本語における派生名詞や複合名詞の発達をあげることができよう。複数の一

連の概念を1つの名詞で総合的に表わしきっている日本語の派生名詞や複合名詞は、韓国語ではしばしば用言を含む複数の単語で分析的に現れるのである：

その日は、どこまでも〈青空が〉続いていた。

그 날은 푸른 하늘이 끝없이 이어졌다.

(lit. 青い空が)



【図3】1単語からなる名詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

日本語の「青空」という語彙レベルの重名詞が、韓国語では「実質用言の連体形+軽名詞」という形に「解かれて」現れている。日本語の1単語内部の語構成要素の担う語彙的な意味が、韓国語では実質用言の形で軽名詞に対する修飾語として統辞構造を変貌させながら、動詞構造化をもたらしわけである。

動詞構造化を引き起こす、こうしたタイプは、日本語の複合名詞や、豊富な接辞による語構成がもたらす、日本語と韓国語との語彙的な対応に起因するものである。語彙的な対応から見ると、非在グループに属するものが相当な部分を占める<sup>(16)</sup>。韓国語の動詞構造化をもたらしメカニズムの決定的な要因の一つは、このように日本語の名詞に対応する名詞が韓国語に存在しなかったり、存在はしてもその使用域が著しくずれていることによるのであり、とりわけ派生名詞や複合名詞を初めとする重名詞の非在とずれば動詞構造化を誘発する。下の例は、上の類型の実質用言が、副詞として現れるタイプである：

東京に珍しく〈大雪が〉降った翌日のことだった。(恋／11)

도쿄에서는 드물게 눈이 많이 내린 다음날이었다。(사랑／13)

(lit. 雪が多く降った翌日のことだった)

## 4.1.2.2. 2単語以上からなる名詞的な重名詞

〈仕事の場合〉のように、2単語以上からなる名詞的な重名詞が動詞構造化する例も見える：

〈仕事の場合が〉多いよ。(A2Z / 29)

일 때문에 간 게 대부분이야。(A2Z / 31)

(lit. 仕事のために行ったのが)

でもねえ、〈森下のことが〉まったく影響を与えてないかっていうと、  
～(A2Z / 23)

하지만 말예요, 모리시타가 저지른 일이 전혀 영향을 주지 않았느냐 하면, ～(A2Z / 25) (lit. 森下がしでかしたことが)

上のような例においては、「場合」と「こと」は、修飾語を必須のものとして、重名詞構造を成す。主語におけるこうした日本語の重名詞構造は、韓国語ではしばしば動詞構造化するのである。「…の場合」「…のこと」からのこうした動詞構造化は、テキスト／ディスコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらすものであることが多い。

## 4.2. 主語となった形容詞的な名詞

主語として機能する形容詞的な名詞は、概ね、次の2つに類型化できる：

- 1) 「奇麗」, 「元気」のような、いわゆる形容動詞の語幹
- 2) 「うれしさ」, 「くやしき」のような、形容詞からの派生名詞

形容詞的な名詞は、もともと用言的な性質を有するので、同じ品詞範疇に属しながらも、名詞的な名詞とは異なる性格を帯びる。形態論的な特徴に着目すれば、名詞として分類し得るが、意味的には形容詞的な性質が強いといえよう。文の中で主語として機能するとき、形容詞的な名

詞の、このような両面性が、韓国語の中ではどのように表出されるのかを見てみよう。

#### 4.2.1. 主語となった形容詞的な軽名詞

形容詞を名詞化する接尾辞「-さ」が付いた形容詞的な名詞が主語として用いられた場合、韓国語では、統辞論的な変化を伴いながら様々な形で動詞構造化する：

背が高く色白の青年だった。まだ顔に〈幼さが〉残っていた。(冷静と B / 38)

큰 키에 얼굴이 새하얀 청년이었다. 아직 옛때 보이는 얼굴이다. (냉정과 B / 37) (lit. 幼く見える顔である)

〈忙しさが〉どんなに増しても彼女の治す力は減りはしない。(とかげ / 37)

아무리 바빠져도 그녀의 치료 능력은 ~ (도마뱀 / 36)  
(lit. どんなに忙しくなっても)

その真面目な様子を見ていたら私は不意に〈おかしさが〉こみ上げ、  
~ (インストール / 49)

그 심각한 모습을 보고 있으려니 나는 갑자기 우스꽝스러워서 ~ (인스톨 / 55) (lit. おかしくて)

翻訳書などを見てみると、「-さ」タイプの形容詞的な名詞を韓国語で名詞に置き換え、無理に名詞構造を維持させるため、かえって不自然さが現れる場合もある。<sup>(17)</sup>

#### 4.2.2. 主語となった形容詞的な重名詞

##### 4.2.2.1. 1 単語からなる形容詞的な重名詞

形容詞的な名詞が重名詞である場合は動詞構造化がさらに加速される：

〈手早さが〉ポイントだ。(きらきら／10)

재빨리 해야 한다. (반짝반짝／12)

(lit. 素早くしなければならない)

きっと僕の〈嫉妬深さが〉彼女を悪くとらえ過ぎていたんだろう。(普通の愛／134)

틀림없이 내가 질투가 심해 그녀를 너무 나쁘게만 보고 있었던 거겠지.

(lit. 嫉妬がひどくて)

4.2.2.2. 2単語以上からなる形容詞的な重名詞

接尾辞「-さ」が付いた形容詞的な名詞が、名詞的な名詞に修飾される「名詞的な名詞+の+形容詞的な名詞+が」の重名詞構造は、韓国語では、しばしば「形容詞の連体形+名詞+-가/이」で動詞構造化する：

またその照らされた〈部屋の汚さが〉ホラーで、～(インストール／8)

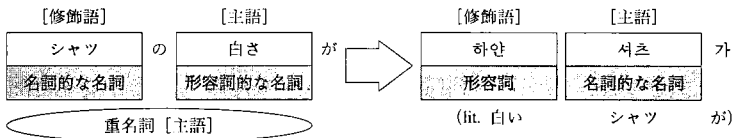
그 빛에 드러난 지저분한 방은 가히 호러적이었다. (인스톨／13)

(lit. 汚い部屋は)

その〈シャツの白さが〉、内藤の顔色の悪さをさらに浮き立たせているように感じられた。(一瞬の夏)

그 하얀 셔츠가 나이트의 나쁜 안색을 한층 더 두드러지게 하는 것 같았다.

(lit. その白いシャツが)



【図4】 2単語以上からなる形容詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

〈 흰 〉(白さ, 白いこと)のような、形容詞の名詞形が形態的には韓国語に存在していても、上に見えるように、そうした名詞形は用いず、動詞構造で現れる傾向があるのである。とりわけ、修飾語となる名詞的な

<sup>(18)</sup>  
 名詞が具体名詞の場合はその傾向が強いようである。上のタイプ以外にも韓国語では、形容詞的な重名詞が主語として用いられる場合の負担を様々な形の動詞構造化で解決している：

〈仕事の忙しさが〉それを隠してしまったのか、～ (A2Z / 15-16)

눈코 뜰 새 없는 일상이 그것을 감춰버린 걸까? ～ (A2Z / 17)

(lit. 目鼻開ける暇のない日常が)

駅からは遠いが〈陽当たりの良さが〉気に入ったのかもしれない。(コンセント / 23)

이 아파트는 역에서는 멀지만 방에 햇볕이 잘 들어 마음에 들었을 것이다. (콘센트 / 23) (lit. 日差しがよく入って)

あの程度で自分を可愛いと思う、その〈美意識のなさが〉可愛くないね。(姫君 / 26)

저 정도를 갖고 자신이 예쁘다고 생각하다니, 미의식이 그토록 부족하다는 점이 마음에 안들어. (공주님 / 31) (lit. 美意識がそれほど足りないという点が)

主語における2単語以上からなる形容詞的な重名詞の動詞構造化は、語彙的に対応する名詞が存在していても、単語結合レベルでは非在やずれが起こり、それへの対応がもたらす動詞構造化といえよう。

#### 4.3. 主語となった動詞的な名詞

動詞的な名詞が、主語として機能するとき、とりわけ特定の単語結合の中に入ると、韓国語との対応が著しく崩れてしまう。例えば、「付き合い」という名詞は、単語レベルでは「사귀기 / 사귄다」, 「어울리기 / 어울림」<sup>(19)</sup>といった名詞に対応し得るが、文の実現体として、「付き合いが悪い」という単語結合をなすと、韓国語では、「잘 안 어울린다 (lit. よく付き合わない)」のような動詞構造化に変貌する。日本語と韓国語の名詞が



単語レベルでは「存在グループ」の対応であっても、このように単語結合をなすと、韓国語への対応は動詞構造化を引き起こすことがしばしば見られるのである。

ここで見るタイプは、日本語の動詞的な名詞が、実際の文の中で、主語として積極的に機能していることを示すもので、注目すべきである。面白いことに、形容詞的な名詞でもそうであったように、韓国語では、動詞からの派生名詞は、語彙項目としては存在するものの、主語としてはあまり多用されていない。

以下、動詞的な名詞が、実際のテキストにあって、どのような構造の中で主語として機能するのかを、典型的なタイプごとに見てみよう。

#### 4.3.1. 主語となった動詞的な軽名詞

林八龍(1995:275-276)は、日本語の場合、「帰り」「造り」などの連用形名詞は、韓国語では、「帰ること」「造る方法」といった動詞表現になると指摘している。こうした動詞的な軽名詞の動詞構造化は、韓国語では、語彙項目としては対応する名詞が存在していても、文の中での実現体としては当該の名詞で対応しきれないがゆえに起こるものである：

行きはいいけど、〈帰りが〉心配だねえ。(聞き書き)

갈 때는 괜찮지만, 돌아올 때가 걱정이야.

(lit. 帰ってくる時が)

ところが、以下の章でも述べるが、同じ「帰り」という単語であっても、「帰りが」ではなく、「帰りを」という形で、文の中で目的語という文成分で実現される場合は、韓国語でも名詞構造で現れうる：

一浩の〈帰りを〉待ちわびている訳でもない。(A2Z/82)

가즈히로가 돌아오길 기다리는 것도 아니다.(A2Z/82)

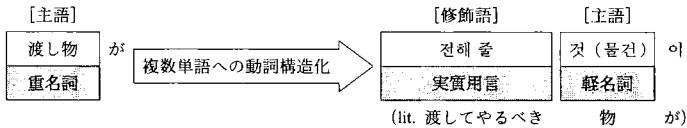
(lit. 帰りを)

このように、単語など問題となる項目を、語彙項目だけの対照ではなく、本稿のごとく、文の中での実現体として、文の成分ごとに解析することで、2言語の対照がより精緻に描き出せるのである。

#### 4.3.2. 主語となった動詞的な重名詞

##### 4.3.2.1. 1単語からなる動詞的な重名詞

日本語の「渡し物」「探し物」「忘れ物」といった動詞的な重名詞は、もともと語彙的に韓国語に存在しないタイプで、日本語の動詞的な名詞に内在する動的な語義が、韓国語では動詞として現れるのである：



【図5】 1単語からなる動詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

1単語からなる動詞的な重名詞は、文成分ごとの偏差を見せており、言語資料から主語をはじめ、目的語、述語における動詞構造化の例は見出せたが、修飾語においては1例も見当たらなかった。

接尾辞「-<sup>かた</sup>方」を伴う動詞的な重名詞も、非常に生産的で、とりわけ会話ではよく用いられるが、このタイプも韓国語ではしばしば動詞構造化する：

でもその〈生き方が〉良いか悪いかなんてそれぞれの価値観じゃないか、～ (インストール/25)

어떻게 사는 게 좋으냐 나쁘냐는 각자의 가치관에 따른 거잖아, ～ (인스톨/30) (lit. どう生きるのが良いか悪いかは)

ということはつまり、私の〈やり方が〉まずかっただけで、～ (インストール/47)

그렇다면 내가 잘 다룰 줄 몰랐을 뿐 ～ (인스톨/52)

(lit. うまく扱うことを知らなっただけで)

1 単語からなる動詞的な重名詞としては、以下のような例も現れた：

마루는 사이드에 앉아 있는데, 나는 움직일 수 없다. (冷静と R / 12)

(冷静と R / 12)

마빈은 벌써 잠들었고, 나는 움직일 수 없다. (냉정과 R / 11)

(lit. 私は動くことができない)

ぼくも彼女も 人当たり가良かった. (姫君 / 24)

나에게도 그녀에게도 사람이 잘 따르는 편이었다. (공주님 / 29)

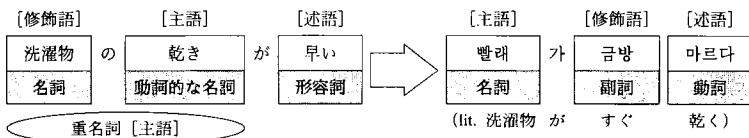
(lit. 人がよく従うほうだった)

#### 4.3.2.2. 2 単語以上からなる動詞的な重名詞

「乾きが早い」のような、日本語の「(動詞的な名詞+が)+形容詞」という単語結合が、韓国語では「금방 마르다 (lit. すぐ乾く)」のように副詞を伴いながら動詞構造化するものも多い。こうした名詞は、「乾き」のような単独の軽名詞よりも、「洗濯物の乾き」のように、修飾語を伴った重名詞の場合が多い：

やあ、最近、天气がよくて、洗濯物の乾き가 早いよね。(聞き書き)

정말 요즘은 날씨가 좋아서 빨래가 금방 마르지.



【図6】 2 単語以上からなる動詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

他にも、日本語の「麦茶の減り가 早い」「薬の無くなり가 早い」「白粉<sup>おしろい</sup>の乗り가 いい」といった下線の重名詞構造は、韓国語では、例えば、「보리차가 금방 줄어들다」(lit. 麦茶がすぐ減る)「약이 금방 없어진다」(lit. 薬がすぐ無くなる)「분이 잘 먹는다」(lit. <sup>おしろい</sup>白粉がよく食べる)のごとく激しい統辞論的な変化を伴いながら、動詞構造化する。

## 4.4. 主語となった副詞的な名詞

副詞的な名詞が主語となる例も散見される。「〈副詞的な名詞が〉+いい」といった構造がほとんどである：

どうせやるんだったら, 〈すぐが〉いいよ。

이왕 할 거, 빨리 하는 게 좋아.

(lit. すぐやるのが)

## 5. 目的語における名詞構造と動詞構造

## 5.0. 目的語における日本語の名詞構造と韓国語の動詞構造

本章では、文の中で名詞が「名詞+を」の形で目的語として用いられる類型を考察する。文にあつては目的語も主語と同様、鮮明なる輪郭を以って措定しなければならない。したがって、日本語に名詞構造で現れるものは、韓国語でも名詞構造で現れるのが、自然なことであろう。しかしながら、目的語も主語と同様、韓国語に動詞構造で現れるものが見出せる。翻訳書の場合、日本語の名詞構造、251例のうち、動詞構造で現れたものは、18例、7.2%<sup>(20)</sup>であつた：

【表8】目的語における日本語の名詞構造に対応する  
韓国語の名詞構造と動詞構造 (単位：例)

日本語の名詞構造	名詞的な名詞	形容詞的な名詞	動詞的な名詞	副詞的な名詞	計	
	226	3	21	1	251	100.0%
韓国語の名詞構造	214 94.7%	2 66.7%	16 76.2%	1 100.0%	233	92.8%
韓国語の動詞構造	12 5.3%	1 33.3%	5 23.8%	0 0.0%	18	7.2%

## 5.1. 目的語となった名詞的な名詞

目的語として用いられる日本語の名詞的な名詞のうち、韓国語の翻訳書では表8のように5.3%が動詞構造化している。この計量結果は、4.1.の主語における名詞的な名詞の動詞構造化、8.9%に比すれば、低い値であるが、動詞構造化の類型は多く、構造の豊かさも注目に値する。

## 5.1.1. 目的語となった名詞的な軽名詞

4.1.1. の主語における動詞構造化と同様、目的語においても、名詞的な軽名詞が実質用言と単語結合を成し、新たな意味が生産される場合、韓国語ではしばしば動詞構造化する：

夫を送り出したあと、私は新聞にざっと〈目を〉通し、～（きらきら／12）

남편을 배운 후 나는 신문을 짹 훑어보고, ～（반짝반짝／14）

男と女が床に〈腰を〉降ろし、ベッドに寄り掛かって～（A2Z／30）

남자와 여자가 바닥에 앉아, 침대에 몸을 기대는 채～（A2Z／32）

（lit. 床に座って）

## 5.1.2. 目的語となった名詞的な重名詞

## 5.1.2.1. 1単語からなる名詞的な重名詞

4.1.2. の主語と同様、派生名詞や複合名詞は多くの場合、韓国語では動詞構造化で現れる：

ほんの少しだけ〈笑顔を〉見せ合うことができた。（普通の／130）

아주 조금이지만 서로 웃는 얼굴로 대할 수 있었다.

（lit. 笑う顔で）

いつも薄化粧の彼女だが、今日は〈厚化粧を〉している。

항상 화장을 연하게 하는 그녀가, 오늘은 화장을 진하게 했다.

（lit. 化粧を厚くした）

## 5.1.2.2. 2単語以上からなる名詞的な重名詞

## 5.1.2.2.1. 「…をしている」タイプ

名詞的な名詞が修飾語を必須のものとして伴って、重名詞目的語となり、その述語として機能動詞の「する」が「<sup>(21)</sup>している」の形をとる類型

は、日本語ではとりわけ話しことばで非常に生産的で多用される。注目すべきことに、こうした類型はほとんどが韓国語では動詞構造をとる：

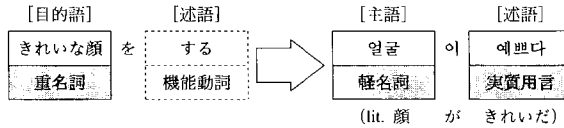
麻子は、つわりがひどいらしく、〈青い顔を〉していた。(姫君／87)

아사코는 입덧이 심한 듯 얼굴이 창백했다. (공주님／86)

(lit. 顔が蒼白だった)

睦月は短いまつ毛がまっすぐにそろっていて、〈きれいな顔を〉している。(きらきら／9)

무즈키는 짧은 속눈썹이 가지런하고 얼굴이 예쁘장하다. (반짝반짝／11)



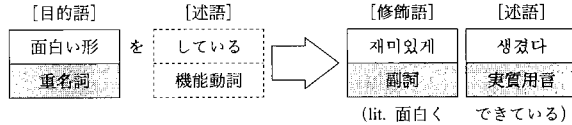
【図7】 2単語以上からなる名詞的な重名詞がもたらす動詞構造化 1

「〈きれいな顔〉」という単語結合のレベルでは韓国語でも名詞構造で対応しうる。それにもかかわらず、「〈きれいな顔を〉している」という構造をとって、〈きれいな顔を〉が目的語という文の成分としての制約を受けて働く際には、韓国語では動詞構造化が引き起こされてしまう。「〈きれいな顔を〉している」という「[目的語]+述語」構造全体を見ても、「主語+述語」という統辞論的な構造の変更が要求されるのみならず、厳密に見るならば、実は〈きれいな顔を〉といった、日本語の目的語という成分が、韓国語ではそのまま維持できず、目的語成分の担う語彙的な意味そのものが、既に「主語+述語」という構造に解かれてしまうのである。こうした類型は2言語間に統辞論的な変更を要求するものであり、表現様相の大きな違いをもたらす典型の一つだといえよう。以下の例は、「きれいな顔をしている」タイプと同じ名詞構造をとるが、動詞構造化においては異なる表現様相で現れる。重名詞目的語「面白い形」が、韓国語では、名詞としての形を全く維持できず、「副詞+動詞」という動詞構造化で現れている：

ほら, これ, <面白い形を> しているよ! (聞き書き)

이거 좀 봐. 너무 재미있게 생겼어.

(lit.面白くできている)



【図8】 2単語以上からなる名詞的な重名詞がもたらす動詞構造化 2

「いい年」「いい顔」などの重名詞が「する」と単語結合をなす場合の動詞構造化の例も現れた:

雅也の懸命な生き方を知らされたような気がした。それに比べ, <いい年を> してぼんやり OL をやってる自分は何なのだろう。(女たちの/19)

안도의 현명한 생활 방식을 깨달은 듯한 기분이다. 거기에 비하면 이 나 이를 먹어서도 평범한 OL 에 머무르고 있는 자기는 무엇일까. (여자들의/21) (lit. この年を食っても)

またまたみんなに <いい顔を> しようと思っちゃって。

또 이 사람 저 사람한테 다 잘 보이려고.

(lit. よく見られようと)

#### 5.1.2.2.2. 「…のことを」タイプ

名詞的な名詞の修飾を受けた <ことを> がもたらす名詞構造が, 韓国語では, 「名詞+-에 대해서」の形で現れるタイプである。韓国語の辞書ではしばしば動詞として扱われる「대하다」が, 常に「-에 대해서」「-에 대해」「-에 대하여」「-에 대한」の形でのみ用いられることを考えると, 機能的には後置詞として考える。しかしながら形態的には活用を見せており, 野間秀樹 (2000: 165) が指摘するように, 終止形のない不完全用言とも考えることができる。こうしたタイプを一種の動詞構造

として考えることもできよう：

人に〈自分のことを〉話したの，すごく久しぶりで，話しすぎたみたい。  
(とかげ／36)

남에게 자기에 대해 이야기하는 것이 무척 오랜만이라 ~ (도마뱀／34)  
(lit. 自分に対して)

韓国語で後置詞ではなく，完全用言を用いて動詞構造化する場合もある：

葬儀の時に使う〈遺影のことを〉言っているのだ，とすぐにわかった。  
(窓／10)

장례식 때 쓸 영정을 의미하는 것임을 금방 알아들었다. (사랑／12)  
(lit. 遺影を意味することであることを)

男の住んでいる〈信州のことを〉尋ねた。(女性たちの／9)  
남자가 살고 있는 신주에서 무슨 일을 하는지 물었다. (여자들의／10)  
(lit. 信州で何の仕事をするのか)

## 5.2. 目的語となった形容詞的な名詞

### 5.2.1. 目的語となった形容詞的な軽名詞

4.2.1. の主語となった形容詞的な軽名詞と同様，接尾辞「-さ」の付いた形容詞的な名詞が目的語に用いられた場合，韓国語では統辞論的な変化を伴いながら，動詞構造化する：

小さい頃，〈悪さを〉して押し入れへ閉じ込められたんでしょ，きつと。(女社長に乾杯！)

어릴 때，나쁜 짓을 해서 벽장에 갇혔었지. 틀림없이 그럴 거야.  
(lit. 悪いことを)



私の世界は物理的には〈複雑さを〉増し、頭の中は、どんどんシンプルになっている。(A2Z / 178)

내 세계는 물리적으로는 더 복잡해졌고, 머릿속은, ~ (A2Z / 171)  
(lit. より複雑になって)

## 5.2.2. 目的語となった形容詞的な重名詞

### 5.2.2.1. 1 単語からなる形容詞的な重名詞

形容詞的な名詞が重名詞である場合は、動詞構造化がさらに加速される：

私にとって重要なのは、とそこまで考えて、自分の〈身勝手さを〉恥じた。(A2Z / 131)

나한테 중요한 건, ~ 갑자기 내가 얼치없다는 생각이 들어 부끄러웠다.  
(A2Z / 128) (lit. 廉恥ないという考えが入って)

### 5.2.2.2. 2 単語以上からなる形容詞的な重名詞

4.2.2.2. の主語と同様、日本語の形容詞的な名詞は、単語レベルでは韓国語にも対応する単語が存在するが、ある特定の単語結合の中で目的語として機能する文レベルでは、その対応が崩れてしまう：

〈人のよさを〉感じさせる調子で男は言った。(一瞬の夏)

좋은 사람이란 걸 느끼게 하는 어조로 남자는 말했다.

(lit. いい人であるということを)

加藤はしばらく、吹雪の中に立って、〈風の強さを〉身体でこたえていた。(孤高の人)

가토는 한동안 눈보라 속에서, 강한 바람을 몸으로 견뎌내고 있었다.

(lit. 強い風を)

どこかにあの〈脚の長さ〉と、〈胸の大きさ〉と〈ウエストの細さ〉と

〈肌の美しさを〉売っていたら, ~ (挑む/40)

어디선가 저 긴 다리와, 큰 가슴과 가는 허리와 고운 피부를 팔고 있다면 ~ (lit. 長い脚) と (lit. 大きい胸) と (lit. 細いウエスト) と (lit. 美しい肌を)

〈あんたの根性の悪さを〉私しか知らないって,ほんと, 悲劇。(イン  
ストール/26)

너의 근성이 그토록 나쁘다는 걸 아는 사람이 나밖에 없다는 건 ~ (인  
스톨/31) (lit. あんたの根性がそれほど悪いということ)

### 5.3. 目的語となった動詞的な名詞

#### 5.3.1. 目的語となった動詞的な軽名詞

本稿の調査では該当例は見つかっていないが, 次のような例を考え得るだろう:

ここは〈読みを〉間違えるとえらいことになっちゃうぞ。気をつけるんだね。

여기는 잘못 읽으면 큰일나니까 조심해야 돼.  
(lit. 間違って読むと)

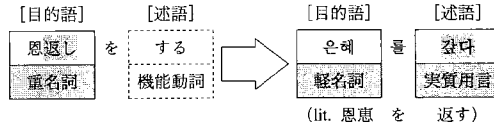
#### 5.3.2. 目的語となった動詞的な重名詞

##### 5.3.2.1. 1 単語からなる動詞的な重名詞

日本語の名詞構造が韓国語において動詞構造化をもたらす典型的なメカニズムとして, 名詞の内部構造に既に「目的語+述語」が含まれた, 例えば, 「恩返し」「子育て」「腕組み」「舌打ち」といった重名詞をあげることができよう。こうしたタイプの動詞的な重名詞は, 単語レベルでは, 韓国語でも, 例えば, 「은혜 갚기」「애 키우기」「팔짱 끼기」「혀 차기」のように「存在タイプ」に成りうるが, 機能動詞「する」の目的語として用いられる単語結合においては, その対応は崩れ, 韓国語ではしばしば動詞構造化する:

長年苦勞をかけた姉の友子にも一刻も早く〈恩返しを〉したい。(花埋み)

오랫동안 고생을 시킨 유코언니에게도 한시라도 빨리 은혜를 갚고 싶다.  
(lit. 恩恵を返したい)



【図9】 1単語からなる動詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

日本語の「恩返しをする」も韓国語の「은혜를 갚다 (lit. 恩恵を返す)」も表面的な構造は、いずれも「名詞+を+動詞」で現れ、日本語も韓国語も両方とも目的語そのものは名詞構造で現れているように見える。しかしながら、詳しく分け入って見ると、日本語のほうは、名詞「恩」と動詞の語義を持つ「返し」が合わさって「恩返し」という一つの重名詞で現れ、韓国語のほうは、「은혜 (lit. 恩恵)」という軽名詞で現れる。つまり、日本語のほうは、重名詞「恩返し」が、用言の語彙的な意味まで担っているのに比べ、韓国語のほうは、「갚다」という実質用言が担っているのである。

「動詞的な重名詞+を+する」構造は、重名詞の内部構造の性質によって、韓国語ではさまざまな形の動詞構造化が起こりうるが、以下は、重名詞の形容詞的な語義が、韓国語では副詞で現れる例である：

〈早起きを〉し、九時頃家を出ようとした。(一瞬の夏)

일찍 일어나 9시쯤 집을 나오려고 했다.

(lit. 早く起き)

また、接尾辞「-物」の付いた動詞的な重名詞が、目的語として用いられ、機能用言「する」と単語結合を成すとき、韓国語ではしばしば動詞構造化する：

また、〈忘れ物を〉しちゃって、家に戻るの。(聞き書き)

또 뭘 잊어버려서, 집에 돌아가야 돼.

(lit. 何かを忘れてしまって)

下の例は、もともと語彙的に韓国語には存在しない名詞を、動詞や形容詞など用言を用いて2単語以上で分析的に表現することがもたらす動詞構造化の類型である：

彼は〈思い出し笑いを〉しながら言うのだった。(A2Z / 140)

그는 혼자서 무언가 떠올린 듯 즐거운 표정을 지으며 말했다. (A2Z /

136) (lit. 何かを思い出したように楽しい表情を作りながら)

### 5.3.2.2. 2単語以上からなる動詞的な重名詞

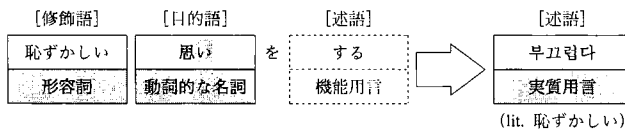
#### 5.3.2.2.1. 「恥ずかしい思いをする」タイプ

主として感情を表す形容詞に修飾された動詞的な名詞「思い」が、例えば「辛い思いをする」「悔しい思いをする」「寂しい思いをする」「悲しい思いをする」などのように、機能用言「する」の目的語として用いられる場合、「動詞的な重名詞+を+する」といった構造全体がしばしば実質用言で動詞構造化する：

あの時、あまりにも〈恥ずかしい思いを〉したから、もう行きたくないよ。(聞き書き)

그때 너무 부끄러웠기 때문에 정말 가기 싫다구!

(lit. あまりにも恥ずかしいかったから)



【図10】 2単語以上からなる動詞的な重名詞がもたらす動詞構造化

聞き書きの例の中には、激しい統辞論的な変化を見せながら、動詞構

造化する例も現れた：

〈重い思いを〉して持ってきた。(聞き書き)

들고 오는데 너무 무거웠어.

(lit. 持ってくるのに、とても重かったよ。)

5.3.2.2.2. 「変な作り方をしている」タイプ

動詞の連用形に接尾辞「-方<sup>かた</sup>」のついた動詞的な名詞が修飾語を必須要素とし、重名詞を成す目的語となり、その述語として機能用言「する」をとる類型は、日本語ではとりわけ話しことばでは非常に生産的で多用される。こうした類型は韓国語では「-方<sup>かた</sup>をする」全体が、一つの実質用言として現れる動詞構造をとる場合が多い。また、修飾語は、韓国語ではしばしば副詞の形で現れる：

〈変な作り方を〉しているね。(聞き書き)

이상하게 만들었네.

(lit. 変に作ったね。)

違うの、私、兄が〈変な死に方を〉したものだから少しナーバスになっているんだと思う。(コンセント/56)

아냐. 나 말이지, 오빠가 이상하게 죽어서 좀 신경이 날카로워진 것 같아. (コンセント/52) (lit. 変に死んで)

外来のかたは午前中なんですけど…と〈ぶっきら棒な言い方を〉した。  
(青春の蹉跌)

외래 환자는 오전중인데요라며 통명스럽게 말했다.

(lit. ぶっきら棒に言った)

ねえ、これ見てよ。〈なさない負け方を〉しているんだから。(聞き書き)

이거 좀 보라구. 정말 한심하게 지고 있다구.

(lit. なさげなく負けているんだってば)

〈こんな聞き方を〉していいかどうか分かりませんが。(聞き書き)

이렇게 물어도 될지 어떨지 모르겠는데요.

(lit. こう聞いて)

〈そういう書き方を〉したかも知れない。(山本五十六)

그렇게 썼을지도 모른다.

(lit. そう書いたかも知れない)

兄が〈あんな死に方を〉したのは「お前の育て方が悪かったからだ」と。(コンセント/50)

오빠가 그렇게 죽어간 것은 엄마가 자식을 잘못 키운 탓이라고 하면서.

(콘센트/47) (lit. ああ死んでいったのは)

#### 5.4. 目的語となった副詞的な名詞

副詞的な名詞が目的語となった例は、本稿の調査では1例も見つかっていない。副詞的な名詞は修飾語や述語に偏っている。

### 6. 修飾語における名詞構造と動詞構造

#### 6.0. 修飾語における日本語の名詞構造と韓国語の動詞構造

本章では、名詞が他の名詞の連体修飾語として用いられる類型を考察する。基本的には名詞が「…の」を伴ったものであるが、「名詞+助詞」,<sup>(22)</sup>「名詞+副助詞」が「…の」を伴った形も考察の対象とする。

翻訳書の調査を見ると、日本語の名詞が主語や目的語として用いられた場合は、韓国語で動詞構造化するものは10%以下であったが、修飾語として用いられた名詞は、18.4%が韓国語で動詞構造化している。韓国語の動詞構造化は、日本語の修飾語として用いられた名詞に際立ってい

【表9】修飾語における日本語の名詞構造に対応する  
韓国語の名詞構造と動詞構造(単位:例)

日本語の名詞構造	名詞的な名詞	形容詞的な名詞	動詞的な名詞	副詞的な名詞	計	
	307	0	21	4	332	100.0%
韓国語の名詞構造	261 85.0%	0	9 42.9%	1 25.0%	271	81.6%
韓国語の動詞構造	46 15.0%	0	12 57.1%	3 75.0%	61	18.4%

ることが、調査からはっきりと見て取れる。本章で詳しく見るが、名詞が修飾語として用いられた〈名詞+の〉の構造は、日本語と韓国語の統辞論的な違いをもたらす、典型的な構造の1つだと言ってもよいほどである。

名詞の性格別に分け入って見ると、日本語において修飾語として名詞的な名詞が用いられた場合でも、韓国語では既に15.0%が動詞構造で現れている。これが動詞的な名詞となると、動詞構造で現れるものが57.1%にのぼっており、注目すべきである。

### 6.1. 修飾語となった名詞的な名詞

修飾語として用いられる日本語の名詞的な名詞のうち、韓国語の翻訳書では、表9のように307例中、46例、15.0%が動詞構造化しているが、そのほとんどは、テキスト/ディスクコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造化である。

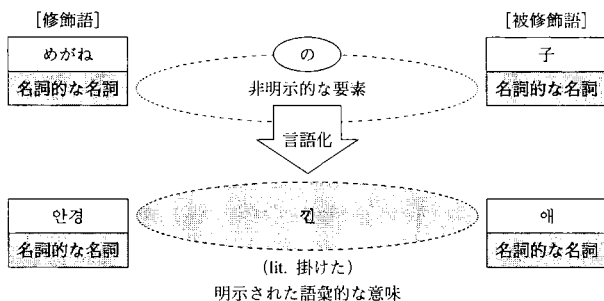
#### 6.1.1. 修飾語となった名詞的な軽名詞

修飾語における日本語の名詞的な軽名詞が韓国語で動詞構造で現れる類型は、修飾語における動詞構造化の典型ともいえる<sup>(23)</sup>：

昨日の〈めがねの〉子、覚えてる？(聞き書き)

어제 안경 낀 애 기억나?

(lit. めがねかけた)



【図11】非明示的な要素を言語化しようとするのがもたらす動詞構造化

修飾語の名詞が身体への付着物で、被修飾語の名詞が人間名詞の場合、<sup>(25)</sup>例えば、「カーディガンの子」「ピアスの男」「長靴の青年」「ひげのお爺さん」といった日本語の名詞構造は、韓国語ではほとんどが動詞構造化する。例えば、「가디건 입은 애」(lit. カーディガンを着た子)「귀걸이 한 남자」(lit. ピアスをした男)「장화를 신고 있는 청년」(lit. 長靴を履いている青年)「수염을 기른 할아버지」(lit. ひげを生やしたお爺さん)のようである。以下の例を見てみても、被修飾語が人間名詞の場合に動詞構造化が起りやすいことがわかる：

〈カツ丼の〉方は？ (聞き書き)

가쓰丼 시키신 분요?

(lit. カツ丼させた方)

〈コンタクトの〉お客様こちらどうぞ。(聞き書き)

콘택트렌즈 사러 오신 손님 이쪽으로 오세요.

(lit. コンタクト買いにいらしたお客様)

また、修飾する名詞と修飾される名詞が、意味的に同格の関係にある時、日本語の名詞構造は、韓国語では指定詞「-이다」(…である)を伴って動詞構造化する：



〈友人の〉シナリオライターが上京してくるので、一緒に飲まないか、と〈同僚の〉みどりに声をかけられたは、つい十日前のことだ。(女たちの／10)

동료인 미도리가 친구인 시나리오 작가가 도쿄로 오는데 ~ (여자들의／10) (lit. 同僚であるみどりが友人であるシナリオ作家が東京に来るけど)

林八龍(1995:272)は、日本語の「田舎の母」のように、「存在」を表わす場合の名詞表現は、韓国語では「田舎にいる母」といった動詞表現のほうがより自然であると指摘している。本稿の言語資料からも次のような類例が現れたが、日本語内部においては名詞構造が志向されること<sup>(26)</sup>がわかる：

場所教えていただければ、私のほうから〈先生の〉ところにお伺いします。(聞き書き)

장소를 말씀해 주시면 제가 선생님 계신 데로 찾아뵙겠습니다.  
(lit. 先生のいらっしゃるところに)

また、林八龍(1995:273)には、日本語の「雨の日」のような名詞表現は、韓国語では「雨が降る日」といった動詞表現になるという指摘がある。これは、韓国語においては、そもそも動詞構造しか存在しない型であるが、日本語内部においても、動詞構造より名詞構造が好まれること<sup>(27)</sup>がわかる：

毎日自転車だと、〈雨の〉日とかは、どうするの？(聞き書き)

매일 자전거라고 하면 그럼 비 오는 날은 어떻게 해?  
(lit. 雨降る日は)

しかし、例えば、同じ「雨」という修飾語で修飾される「雨の音」という構造は、韓国語でも名詞構造で現れるのが一般的である。これは、

同じ修飾語でも被修飾語との単語結合によって韓国語における構造が異なってくることを意味する。次は、修飾する名詞と修飾される名詞との間に用言が現れるのではなく、修飾語の名詞そのものが動詞構造化する例である：

〈子供の〉とき初めてプラネタリウムを見たときのあの丸い天井を思い出した。(新婚さん／13)

어린 시절 처음으로 보았던 플라네타륨의 둥근 천장을 떠올리게 했다.  
(신혼부부／11) (lit. 幼かった時節)

〈子供の〉ころ, 両親に連れられてあちこち旅行した。(冷静とR／25)

어릴 적 부모님을 따라 많은 곳을 여행했다. (냉정과 R／25)  
(lit. 幼かったころ)

#### 6.1.2. 修飾語となった名詞的な重名詞

##### 6.1.2.1. 1単語からなる名詞的な重名詞

日本語の「年上」「年下」のような重名詞を韓国語においても「연상」「연하」といった名詞を用いて名詞構造を維持することもできるが、実際の言語場においては、韓国語では、「나이가 많다」(lit. 年が多い)「나이가 적다」(lit. 年が少ない)といった動詞構造がより多く用いられる：

鳥飼よりも一つ〈年上の〉四十五歳だが、年齢よりも遥かに若く見えた。(恋／6)

도리카이보다는 한 살 많은 45세지만, 나이보다 ~ (사랑／10)  
(lit. 一才多い45だが)

ここではぼくは〈年上の〉高梨に専門的な技術を教える立場にあった。(冷静とB／37)

그러나 여기서는 내가 나이 많은 다카나시를 가르치는 ~ (냉정과 B／35)  
(lit. 年多い)

## 6.1.2.2. 名詞と助詞類からなる名詞的な重名詞

ここでは、〈名詞的な名詞+助詞／副助詞+の〉の形で、一種の重名詞を成し、動詞構造化する類型について見てみよう。このタイプも、テキスト／ディスコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造化だといえよう。まず、〈名詞+の〉の間にさらに「から」が入り込んでいる類型を見よう：

この鉢植えは、〈紺くんからの〉結婚祝いだ。(きらきら／11)  
 이 화분은 곤(紺)한테서 받은 결혼 선물이다。(반짝반짝／13)  
 (lit. 紺からもらった)

次は、〈ソウルからの〉お便りです。(聞き書き)  
 다음은 서울에서 온 소식입니다。  
 (lit. ソウルから来た)

日本語では「…からの」だけで表わされている名詞構造を、韓国語では「…からもらった」「…から来た」のように動詞構造化させ、明示するわけである。他にも「まで」「で」「ばかり」「だけ」などが入り込んでいる類型も見える：

石壁は〈きのうまでの〉雨を吸ってひいやりと湿っていたけれど、～  
 (冷静とR／37)  
 돌담은 어제까지 내린 비를 머금어 싸늘하고 축축했다。(냉정과R／  
 35) (lit. きのうまで降った)

〈ランドリーでの〉シャンペンにナツが感動したみたいに、～(A2Z／  
 51)  
 네가 세탁소에서 마신 샴페인에 감동한 것처럼, ～(A2Z／52)  
 (lit. ランドリーで飲んだ)

〈男ばかりの〉会社のなかで、～(新橋烏森口青春篇)

남자들만 있는 회사 안에서

(lit. 男たちだけいる)

〈ラーメンだけの〉生活が続いている。

라면만 먹는 생활이 계속되고 있다.

(lit. ラーメンだけ食べる)

〈路面電車ならでは〉のことなんですけどね。(聞き書き)

전차 아니고서는 있을 수 없는 건데요.

(lit. 電車でなければありえないこと)

## 6.2. 修飾語となった形容詞的な名詞

### 6.2.1. 修飾語となった形容詞的な軽名詞

形容詞からの派生名詞, 例えば, 「うれしさ」「悔しさ」「寂しさ」「恥ずかしさ」などの名詞が, 修飾語となって「あまり」を修飾する場合, 統辞論的な違いをもたらしながら, しばしば動詞構造化する:

〈うれしさの〉あまり, 大声を上げてしまった。

너무 기뻐서 크게 고함을 질렀다. (lit. とてもうれしくて)

너무 기쁜 나머지 고함을 질렀다. (lit. とてもうれしいあまり)

私は, 三日前の夜を思い出して, 〈腹立たしさの〉あまりに飛び起きた。(A2Z / 67)

나는, 사흘 전 밤이 떠올랐고, 너무나도 화가 난 나머지 벌떡 일어났다.

(A2Z / 68) (lit. あまりにも腹が立ったあまり)

### 6.2.2. 修飾語となった形容詞的な重名詞

#### 6.2.2.1. 1 単語からなる形容詞的な重名詞

日本語の「不-」, 「無-」などの否定性接頭辞を持つ名詞は, 主語や目

的語では現れにくく、修飾語や述語で現れるものが大部分であるが、韓国語で動詞構造化をもたらすデバイスの1つである：

買物ポリ袋, 〈不要の〉お客様はピンクのカードを買い物籠に入れてください。

쇼핑 비닐 주머니, 필요 없으신 손님은 핑크색 카드를 쇼핑 바구니에 넣어 주세요. (lit. 必要ないお客様は)

そのような贅沢は〈無縁の〉ものである。(一瞬の夏)

그런 사치와는 인연이 없다.  
(lit. 因縁が無い)

また、1単語からなる形容詞的な重名詞として以下のような例も現れた：

なんといっても空の寛大さと〈気前よさ〉のせいだろう。(冷静とB/19)

뭐니뭐니해도 관대하게 펼쳐진 기분 좋은 하늘 때문이다. (냉정과B/19)  
(lit. 気分いい)

〈お洒落好きの〉彼女もその頃はもう、～(普通の愛/130)

멋 부리기를 좋아하는 그녀도 그 무렵엔 이미～  
(lit. お洒落することが好きな)

なお、2単語以上からなる形容詞的な重名詞の例は、今回の調査では見当たらなかった。

### 6.3. 修飾語となった動詞的な名詞

動詞的な名詞が連体修飾語として用いられる21例のうち、12例、57.1%が韓国語の翻訳書では動詞構造で現れた。

## 6.3.1. 修飾語となった動詞的な軽名詞

日本語の動詞からの連用形名詞は、韓国語においては、語彙項目としては対応する単語が存在していても、文の中での実現体として、とりわけ連体修飾語としては対応しない場合が多い：<sup>(28)</sup>

〈帰りの〉電車で会ったけど、何で？ (聞き書き)

돌아가는 전철에서 만났는데 왜?

(lit. 帰り行く電車で)

特に喫茶店のシーンなど、〈座りの〉芝居になるとその兆候が顕著に現れる。(マダム/17)

특히 커피숍 장면이나, 앉아서 하는 연기가 되면 그 징후가 현저하게 나타난다.

(lit. 座ってする演技になると)

語彙レベルにおいては、日本語の「帰り」「座り」に対応する単語が、韓国語にも例えば、「돌아가기/돌아감」「앉기/앉음」といった名詞形で存在するが、「帰りの電車」「座りの芝居」といった単語結合レベルになると、日本語の名詞構造は、韓国語において動詞構造化する。

林八龍(1994)は「賛成の人」「見物の方」などの場合、韓国語では「賛成する人」「見物する方」のほうが、より自然であると指摘している。本稿の調査からも類似例が現れた：

もしも〈約束の〉日、ぼくの期待が破られたなら、～ (冷静とB/14)

만일 약속한 날 나의 기대가 깨어지면, ～ (냉정과B/14)

(lit. 約束した日)

〈仕事の〉癖がついているので、友だちと待ち合わせをしても、～ (挑む/5)

일 하던 습관이 배어 있어서, 친구들과 만나기로 해도, ～

(lit. 仕事していた習慣が)

「ご覧」「ご存知」などは、もともと修飾語もしくは述語としてのみ使われるが、これも動詞構造化する：

〈ご覧の〉番組は、～ (聞き書き)

보시는 프로그램은～

(lit. 見ていらっしゃる)

誰か 〈ご存知の〉方いらっしゃいませんか。(聞き書き)

누구 아시는 분 계십니까?

(lit. 知っていらっしゃる)

次のような動詞構造化の例も現れた：

〈病気の〉お金はありますか。(『黄金の花』／ネーネーズ)

병이 들었을 때 쓸 돈은 있습니까?

(lit. 病気になった時)

一人暮らしの人は 〈病気の〉時が一番困るんだよね。(聞き書き)

혼자 사는 사람은 아플 때가 제일 문제야, 그치?

(lit. 痛い時)

### 6.3.2. 修飾語となった動詞的な重名詞

#### 6.3.2.1. 1単語からなる動詞的な重名詞

日本語の動詞からの派生名詞が、さらに複合名詞となり、修飾語として用いられるとき、韓国語ではしばしば複数の単語を用いながら動詞構造化する：

葬儀の前に一悶着あったという、〈いわくつきの〉遺影だった。(窓／6)

장례 전에 한바탕 소란이 벌어졌던 복잡한 사정이 있는 영정이었다。(사

랑／10)

(lit. 複雑な事情がある)

〈残業帰り〉のスパゲッティが、その日は酒に変わる。(女たちの／10)  
잔업을 끝내고 먹는 스파게티가 술로 바뀌었다는 ~ (여자들의／10)  
(lit. 残業を終えて食べるスパゲッティ)

日本語の接尾辞「-たて」は生産的だが、これも動詞構造化をもたら  
し、さらに統辞論的な変容が起こる：

本当に食べないの？ おいしいよ！ この〈出来たての〉ご飯！  
정말 안 먹을 거야？ 얼마나 맛있는데. 금방 한 밥이라서!  
(lit. すぐしたご飯)

複合動詞「飲みかける」からの複合名詞「飲みかけ」も動詞構造化す  
る例である：

この〈飲みかけの〉ジュース、誰の？ (聞き書き)  
이 먹다 만 주스 누구 거야?  
(lit. 食べてやめた)

### 6.3.2.2. 2単語以上からなる動詞的な重名詞

日本語で、一般に名詞が連続することはよく指摘されるが、とりわけ、  
いくつかの動詞的な名詞が重なり、重名詞を成す場合、韓国語ではしば  
しば動詞構造化する：

〈旅の〉〈移動の〉疲れか、寝つきの悪いわたしも、～ (マダム／20)  
여행을 하면서 이동하는 게 피곤했는지 ~.  
(lit. 旅行をしながら移動するのが疲れたのか)

商品券の〈引き換えの〉〈お待ちの〉方は、どうぞ中央カウンターの方  
へ。(聞き書き)  
상품권을 교환하시고자 기다리시는 분은 중앙카운터로 와 주십시오.



(lit. 交換なさろうと待っていらっしゃる方は)

日本語の動詞からの連用形名詞は、韓国語においては、語彙項目としては対応する単語が存在していても、文の中での実現体として、とりわけ連体修飾語としては対応しない場合が多い。

#### 6.4. 修飾語となった副詞的な名詞

日本語の副詞的な名詞に対応する単語が韓国語にも存在するにもかかわらず、連体修飾語として用いられる場合、韓国語においては、そうした単語結合に対応できず、動詞構造化しやすい：

それじゃ〈いつもの〉とこで、いい？(聞き書き)

그럼, 늘 만다던 데서 만나도 괜찮아?

(lit. いつも会っていたとこで)

〈いつもの〉ことだ。(パニック)

늘 있는 일이다.

(lit. いつもあることだ)

カウンターごしに〈いつもの〉司書が訊き、～(冷静とR/52)

카운터 너머에서 늘 보는 사서가 물어, ～(냉정과R/49)

(lit. いつも会う司書)

上のように「いつも+の+名詞」構造は、韓国語では動詞構造化しやすい。とりわけ、修飾される名詞が、場所名詞の場合はそのような傾向が強い。<sup>(30)</sup>また「いつもの」のような単純な名詞構造でも、「만나던」と「있는」のごとく、連体形語尾の時制が異なって現れうるのも、面白い。

日本語の「まだ」や「あまり」「すぐ」なども問題になる副詞的な名詞である。連体修飾語として用いられる場合、韓国語では、しばしば動詞構造化する：

食事, 〈まだの〉人! (聞き書き)

식사 아직 안 한 사람?

(lit. まだしなかった人)

まだ年の若いマリアだけは, 〈あまりの〉苦痛のため大地に仆れた。(沈黙)

아직 나이가 어린 마리아만은 너무 심한 고통에 바닥으로 쓰러졌다.

(lit. あまりひどい苦痛)

昼ご飯の時間が済んで 〈すぐの〉教室は, ~ (インストール/6)

점심 시간이 막 끝난 교실은, ~ (인스톨/10)

(lit. すぐ終わった教室)

以上のように, 修飾語における副詞的な名詞の動詞構造化は, テクス  
ト/ディスコースにおける, 言語場にかかわる日本語の非明示的な要素  
を, 韓国語が言語化しようとするに, その原因を探ることができよう。

## 7. 述語における名詞構造と動詞構造

### 7.0. 名詞文の種類

本章では名詞が文あるいは節<sup>(31)</sup>の述語として用いられる類型を整理する。  
この類型には, 「あの子, うちの学生だ。」のように, 主節即ち文全体を  
統合する述語として名詞が用いられる場合と, 「あの子はうちの学生で,  
あの子はよその学生だ。」のように, 従属節あるいは並列節を統合する述  
語として名詞が用いられる2つの場合がある。

主節が名詞で終わる文, 即ち名詞文は, その形態から見ると, ①名詞  
そのもので終わっている文, ②名詞に「だ」「である」などがついて終わ  
る文, ③名詞にいわゆる終助詞が付いて終わる文, 大きく分けるとこの  
3つのタイプが存在する。本稿では, ①を名詞終止文, ②を指定詞終止<sup>(32)</sup>  
文, ③終助詞名詞終止文と呼ぶことにする。指定詞終止文は, 韓国語の  
品詞名を借りて便宜的に呼ぶものである。<sup>(33)</sup>

名詞文を機能の点から見ると、名詞が述語となっている名詞述語文と、述語であるとは決定できない名詞で文が終止している非述語名詞文の2種類がある。なお、名詞そのもの、即ち名格の名詞で終わる文の述語性／非述語性は、しばしば曖昧である。終助詞名詞終止文もそうした曖昧性は残るといえよう。また非述語名詞文には、倒置によるものと、非倒置、即ち正置によるものの2種の下位区分が認め得る：

【表10】名詞文の類型

	形態	機能	構造	例
名詞文	指定詞名詞終止文	名詞述語文	〈名詞＋だ、である〉で終わる文	めがねだ、もう年だ
	終助詞名詞終止文		〈名詞＋終助詞〉で終わる文	学校ね。学校よ。学校か。
			名詞そのもので終わる文	韓国、中国を圧倒。
	名詞終止文	非述語名詞文	倒置による名詞終止文	行くの、学校。
			正置による名詞終止文	きれいな字！

形態に注目し、以下、指定詞終止文、終助詞名詞終止文、名詞終止文に分けて考察することにする。

### 7.1. 指定詞終止文：〈名詞＋だ〉

〈名詞＋だ／である〉の形の指定詞終止文を検討する。翻訳書の場合、日本語の名詞構造、101例のうち、動詞構造で現れたものは、40例、39.6%であった：

【表11】述語における日本語の指定詞終止文に対応する韓国語の名詞構造と動詞構造（単位：例）

日本語の名詞構造	名詞的な名詞	形容詞的な名詞	動詞的な名詞	副詞的な名詞	計	
	75	16	9	1	101	100.0%
韓国語の名詞構造	56 74.7%	0 0.0%	5 55.6%	0 0.0%	61	60.4%
韓国語の動詞構造	19 25.3%	16 100.0%	4 44.4%	1 100.0%	40	39.6%

名詞の下位分類から見てみると、名詞的な名詞は、75例のうち、19例、25.3%が動詞構造で、形容詞的な名詞は、16例のうち、16例、すべてが動詞構造で現れた。動詞的な名詞は、9例のうち、4例、44.4%が動詞

構造で現れている。文成分に注目すると、述語で動詞構造化が著しいことがわかる。

### 7.1.1. 指定詞終止文における名詞的な名詞

#### 7.1.1.1. 指定詞終止文における述語となった名詞的な軽名詞

日本語の「雨」や「年」に対応する名詞が、語彙的には韓国語にも存在するが、それらの名詞が、術語として機能する文レベルにおいては、非在グループ、あるいははずれグループに該当するだろう：

〈雨<sup>(36)</sup>だから〉ご機嫌うかがい、と言ってわらう。(冷静R／61)  
비가 오길래 기분이 어떨까 하고, 라며 웃는다. (냉정과 R／57-58)  
 (lit. 雨が降っているものだから)

うん、もう〈年だから〉、あちらこちらが痛いっていつてるけどね。(挑む女／8)

응, 이제 나이가 많아서, 여기저기 아프다고는 그래도.  
 (lit. 年が多くて)

さらに、テキスト／ディスコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造として、エレベーターに乗る場面での次のような例もある：

〈上ですか〉— いいえ, 〈下です〉。(聞き書き)  
올라가요? — 아뇨, 내려가요.  
 (lit. 上っていきますか) — (lit. 下がっていきます)

上のような言語場において、韓国語でも、例えば、「위예요? (lit. 上ですか) — 아뇨, 아래예요. (lit. いいえ, 下です)」のように名詞構造で表現することもあり得るだろうが、より自然な表現はやはり動詞構造のほうであろう。

## 7.1.1.2. 指定詞終止文における述語となった名詞的な重名詞

## 7.1.1.2.1. 1 単語からなる名詞的な重名詞

語彙レベルでの非在やずれへの対応と文レベルの対応、これらの契機が複合的に動詞構造化をもたらしている類型である：<sup>(37)</sup>

恋がおもしろいなんて、そりゃ〈初耳だ〉。(A2Z / 63)

사랑이 재밌다니, 그런 소린 처음 듣는군. (A2Z / 64)

(lit. 初めて聞くことだね)

男の子は、〈細身で〉うりぎね顔のおとなしそうな感じだ。(挑む女 / 6)

남자 쪽은 몸이 가늘고 가름한 얼굴의 앞전해 보이는 느낌이다.

(lit. 体が細く)

以下の例の「最悪」「最低」は、語彙項目としては、韓国語で対応する「최악」「최저」という単語が存在するが、述語として用いられる時、しばしば対応が崩れてしまう：

もう、彼、〈最低です〉。(聞き書き)

그 사람 정말 형편없어요.

(lit. ほんとうにひどいです)

銀座の飲み屋で一緒になった時なんて〈最悪でさ〉。(A2Z / 92)

긴자 술집에서 같이 한잔했는데 정말 끔찍했어. (A2Z / 91-92)

(lit. ほんとうに恐ろしかった)

## 7.1.1.2.2. 2 単語以上からなる名詞的な重名詞

主として形容詞の類を修飾語とし、重名詞構造化する「修飾語＋名詞＋だ」のような名詞構造が、韓国語では「名詞＋(副詞)＋実質用言」といった動詞構造で現れる類型である：<sup>(38)</sup>

〈いい部屋じゃないか〉。(きらきら／16)

집이 꽤 좋구나. (반짝반짝／18)

(lit. 家がかなりいいね)

渋谷も〈すごい人だ〉ね。(聞き書き)

시부야도 사람이 정말 너무 많아.

(lit. 人が本当にあまりにも多い)

上の例と同じ構造をとっていても、被修飾語となる名詞が「男，女，奴」などの人間名詞の場合、韓国語では被修飾語の名詞は現れず、動詞構造化する<sup>(39)</sup>場合がしばしばある：

何が違うんだよ、〈変な奴だ〉なあ。(コンセント／55)

뭐가 아냐? 이상하잖아. (콘센트／51)

(lit. 変じゃない)

まったく〈嫌な女だ〉わ。(聞き書き)

정말 재수없어.

(lit. 運ない)

単語結合が慣用句的な意味をもつ例も、韓国語ではしばしば動詞構造化する：

話を聞きだすことが可能とあれば、写真を撮ってやることくらい、〈お安い御用であった〉。(恋／11)

이야기를 들을 수만 ~ 사진을 찍어 주는 정도의 수고는 아무 것도 아니었다. (사랑／13)

(lit. 苦勞は何でもなかった)

### 7.1.2. 指定詞終止文における形容詞的な名詞

#### 7.1.2.1. 指定詞終止文における述語となった形容詞的な軽名詞

語彙的に対応する名詞が存在していても、文のレベルにおいて対応していない類型である：

言葉は〈なしだ〉。(冷静とB/24)

말이 없다. (냉정과B/24)

(lit. 言葉がない)

まず第一に、まだ子を産める〈若さだった〉。(コンスタンティノープルの陥落)

빛보다도 아직 아이를 낳을 수 있을 만큼 젊었다.

(lit. 若かった)

同じ「若さ」という単語であっても、主語や目的語としての「若さ」は、<sup>(40)</sup>韓国語でも名詞構造で現れやすいだろう。

#### 7.1.2.2. 指定詞終止文における述語となった形容詞的な重名詞

##### 7.1.2.2.1. 1単語からなる形容詞的な重名詞

修飾語でも確認できたように、否定性接頭辞「不-」「無-」などを持つ重名詞、例えば、「不要」「不仲」「無用」などは、韓国語では2単語以上に分析されつつ、統辞的な構造の差も呼び起こしながら、動詞構造化する：

新聞屋さんへ。十月一日から夕刊は〈不用です〉ので、よろしく願  
いします。

10월 1일부터 석간 신문 필요 없으니, 안 넣으셔도 됩니다.

(lit. 必要ないので)

弟さんとは〈不仲ですか〉。(聞き書き)

동생분하고는 사이가 좋지 않나요?

(lit. 仲がよくないですか)

ああそうか。じゃこも長居は〈無用だな〉。(野火)

자 그렇다면 여기도 오래 있어 봤자 소용 없겠군.

(lit. 必要ない)

否定性接頭辞「不-」「無-」などを持つ形容詞的な名重詞は、主語や目的語はほとんど現れない。3.2. で指摘した通り、一般に、同じ名詞が常にどの文の成分でも同じように用いられるというわけではなく、名詞の出現はしばしば文成分ごとの偏差を見せるのである。

#### 7.1.2.2.2. 2 単語以上からなる形容詞的な名重詞

次のような動詞構造化も見える：

〈すごい重さだよ〉！ (聞き書き)

너무 무거워!

(lit. とても重いよ)

〈奇妙な人恋しさだった〉。(コンセント／58)

이상하게도 사람이 그리웠다. (콘센트／53)

(lit. 妙に人が恋しかった)

#### 7.1.3. 指定詞終止文における述語となった動詞的な名詞

##### 7.1.3.1. 指定詞終止文における述語となった動詞的な軽名詞

動詞の連用形名詞である「帰り」が、名詞終止文として用いられる場合、韓国語では、「動詞の連体形＋名詞」という形で動詞構造化が起こったものである：

パーティの〈帰りだろう〉か、と思った。(新婚さん／12)

파티를 마치고 돌아가는 길일까하고 생각했다. (신혼부부／10)

(lit. 帰り行く道だろうかと思った)



## 7.1.3.2. 指定詞終止文における述語となった動詞的な重名詞

日本語の造語上の特徴からの名詞, 例えば, 「お姉さん思い」のような複合名詞や「大喜び」などのような派生名詞, 接尾辞「-物」のついた「調べ物」などの動詞的な重名詞が, 指定詞終止文として用いられる場合, 韓国語は単一の名詞の形で対応しきれず, 分析的な形<sup>(41)</sup>で動詞構造化する:

あなたのお兄さんは本当に〈家族思いだ〉。(コンセント/39)

당신의 오빠는 가족 생각을 많이 하신 것 같아요. (コンセント/37)

(lit. 家族思いをたくさんなさるようです)

もちろん桃子は〈大喜びだった〉。(楡家の人びと)

물론 모모코는 너무 좋아했다.

(lit. とても喜んだ)

今日は〈調べ物ですか〉(六の宮の/53)

오늘은 뭐 찾으시는 거예요?

(lit. 何か探しているのですか)

## 7.1.4. 指定詞終止文における副詞的な名詞

副詞的な名詞「せっかく」が指定詞終止文となったものである。韓国語では指定詞ではなく, より具体的な実質動詞を伴いながら動詞構造化する:

〈せっかくですが〉, すみません。(聞き書き)

모처럼 갈 수 있는 기회인데 죄송합니다.

(lit. せっかく行ける機会ですが,)

上の「せっかくですが」を日本語と同じ名詞構造で, 例えば「모처럼인데」と訳すこともできるが, 韓国語の KAIST を調査してみると, 「모

처럼 (lit. せっかく) が現れた870例のうち、「모처럼이다」(lit. せっかくだ)の形の指定詞終止文になっているものは「모처럼인데」「모처럼이기 때문에」の僅か2例しか見あたらなかった。韓国語の副詞「모처럼」は、後ろに実質動詞が共起する場合がほとんどである。このことから、少なくとも韓国語内部では動詞構造が好まれていることがわかる。以下の「あまり」の場合も、日本語では指定詞終止文としてしばしば現れるが、韓国語では実質用言を用いて動詞構造化する：

〈あんまりだ〉。(女たち／23)

싫어. (여자들／25)

(lit. 嫌だ)

#### 7.1.5. 指定詞終止文における〈用言+の+だ〉構造

日本語の「～するのだ」で代表されるいわゆる「のだ文」は、機能的には、「～するのだ」全体が文法的な機能を担う分析的な形であり、用言のパラダイムを成す構造であるが、形態的には「用言の連体形+形式名詞+だ」といった名詞構造である。韓国語にもこれに相当する「하는+것+-이다<sup>(42)</sup>」(lit. 用言の連体形+の+だ)といった分析的な形が存在する。韓国語では相当する分析的な形が存在するにもかかわらず、この分析的な形の名詞構造より、一つの実質用言の形による動詞構造で現れることが多い：

そのせいで怒ってても笑っているように〈見えるんだ〉。(新婚さん／13)

그래서 화가 났어도 웃고 있는 것처럼 보여. (신혼부부／12)

(lit. 見える)

本稿では計量の対象とはしていないが、計量調査に用いた日本語500文の中、「～するのだ」の形で現れた全30文に対応する韓国語への翻訳書に現れた名詞構造と動詞構造の頻度は次のとおりである：

日本語の「するのだ」全30文 → 韓国語 名詞構造 12文, 40%
韓国語 動詞構造 18文, 60%

## 7.2. 終助詞名詞終止文

「学校ね。」「学校よ。」「学校か。」など、名詞が終助詞を伴って終止する文の類型は、韓国語では個別の相当物を見出しにくいほどで、日本語に極めて特徴的である。機能的には「책이지?」, 「책이야.」, 「책이니?」, のように、指定詞あるいは指定詞とそれに結合する語尾が司ることが多いが、形態的に最も近いのは、「책이요.」 「책이요?」に見える応答語尾であろう。質問に答える際や、聞き返しに用いる-요/<sup>(43)</sup>-이요である。終助詞名詞終止文は、書かれたテキストにはあまり出てこない。話しことばで多用される形である。計量したテキスト調査には現れていないが、それ以外の部分では次のような例が見える：

〈本当ね〉。(とかげ/92)

정말이야. (도마뱀/89)

(lit. 本当であるの)

あんたの猫背は 〈母親譲りね〉。(インストール/82)

너, 그 새우등, 엄마 닮은 거지. (인스톨/90)

(lit. 母親に似ているのでしょうか?)

たぶんってあなた, 〈困ったひとねえ〉。(冷静とR/40)

아마라니, 너도 참 너무하구나. (냉정과R/37)

(lit. ほんとうにひどいわ)

## 7.3. 名詞終止文

形態上、名詞そのもので文が終わっている類型がこれである。テキスト調査に用いた名詞終止文を見るに先立って、<sup>(44)</sup>ここでは、そもそも日本語と韓国語の実際のテキストには、名詞終止文がどのくらい出現するの

かを見てみることにする。小説やシナリオなどから、冒頭からの100文<sup>(45)</sup>あるいは50文を抽出し、計1,000文のうちにいくつの名詞終止文が出現するかを調査した。日本語は計10作品から1,000文、韓国語は計14作品から1,000文である。

純粹に体言で終わる文、即ちここでいう名詞終止文は、日本語には1,000文中、92文が出現し、韓国語には46文<sup>(46)</sup>が出現した。注目すべきことに、日本語は韓国語の約2倍に上っている：

名詞終止文の出現頻度	→	日本語	92文 (1,000文中)
		韓国語	46文 (1,000文中)

なお、名詞終止文は小説よりシナリオに多く出現する傾向が認められる。ここでの資料は、日本語にはシナリオが1本、韓国語には3本含まれている。韓国語の名詞終止文はシナリオから多く出現したものである。こうした点を勘案してもなお、1割近くに上る日本語の名詞終止文の頻度の高さは驚くべきであろう。これは、日本語の名詞が、韓国語の名詞に比べ、述語としてより積極的に機能していることを物語るともいえる。

以下、テキスト調査における日本語の名詞終止文の韓国語の翻訳書への対応を見てみると、標本数が少なく、確かなことは言えないが、動詞構造の比率の大きさは注目しておいてよいであろう：

【表12】 述語における日本語の名詞終止文に対応する  
韓国語の名詞構造と動詞構造（単位：例）

日本語の名詞構造	名詞的な名詞	形容詞的な名詞	動詞的な名詞	副詞的な名詞	計	
	19	4	1	1	25	100.0%
韓国語の名詞構造	14 73.7%	1 25.0%	1 100.0%	0 0.0%	16	64.0%
韓国語の動詞構造	5 26.3%	3 75.0%	0 0.0%	1 100.0%	9	36.0%

### 7.3.1. 名詞終止文における述語となった名詞的な名詞

名詞的な名詞で文が終わる類型である。とりわけ、日本語の話しこと

ばでは、指定詞や終助詞なしで名詞だけで文を終止する例が多い。以下の例は、名詞的な名詞における終止文が、韓国語では、指定詞「-이다」を伴って動詞構造化する類型である：

あおいって〈誰〉？ (冷静とB/17)

아오이, 누구야? (냉정과B/17)

(lit. 誰なの)

最終的に、あなたとお兄さんの関係が変化したのは〈いつ頃〉？ (コンセント/76)

최종적으로 자네와 오빠의 관계가 변화한 것은 언제쯤이지? (콘센트/70)

(lit. いつ頃なの)

紺くんの〈こと〉？ (きらきら/34)

곤 씨 말이야? (반짝반짝/37)

(lit. 紺氏の話よ)

ははは、〈すごい眺め〉。(インストール/100)

하하하, 대단한 광경이로군요. (인스톨/109)

(lit. 大した光景ですね)

日本語の場合、会話文のみならず、地の文においても名詞で文が終わる例が多い：

忘れてしまったことさえ思い出さないのが〈普通〉。(冷静とB/11)

잊었다는 것조차 모르는 게 보통이다. (냉정B/11-12)

(lit. 普通である)

会葬者は鳥飼を除けば総勢〈十二名〉。(恋/8)

참석자는 도리카이를 제외하고 모두 12명이었다. (사랑/10)

(lit. 12名であった)

日本語では、「最低」「最悪」「最高」などは、会話では、名詞そのもので文が終わる場合が多いが、韓国語ではほとんどの場合、指定詞および実質用言などを用いて動詞構造化する：

あなたって！ もう、〈最低〉！（聞き書き）

너, 정말! 너무 심하다.

(lit. あまりにもひどい)

日本語の名詞終止文の中には、倒置によるものも多く見られるが、以下の例を見てみると、韓国語では、名詞終止文の負担を語順を変えることで解決している：

だって変でしょう、見てくださいこの〈部屋〉。(コンセント／45)

이 〈방〉 좀 보세요. (콘센트／42)

(lit. この部屋ちょっと見てください)

副助詞「ばかり」「だけ」を伴った名詞的な名詞が、ある種の重名詞を成し、名詞終止文として用いられる場合、韓国語では、しばしば動詞構造化する：

もう、〈うそばっかり〉！（聞き書き）

정말 맨날 거짓말만 해!

(lit. うそばかりする)

あなたって人は、場所もわきまえないで、わたしをこまらせる〈冗談ばかり〉。(冷静B／11)

자기는 때와 장소도 가리지 않고 사람 곤란하게 하는 그런 농담만 해.

(냉정파 B／11)

(lit. 冗談ばかりする)

それでおかしいなと思いました。(それだけ。)(インストール/112)  
그래서 이상하다 싶었지, 그뿐이야. (인스톨/120)  
(lit. それだけであるの)

名詞的な名詞の修飾を受けて、重名詞化された名詞的な名詞〈こと〉  
が、名詞終止文として用いられる場合、韓国語では、不完全用言「대하다」  
を伴って「名詞+에 대해서」の形で現れるタイプである：

何を考えてるの、と睦月がきいた。—〈人生のこと〉。(きらきら/9)  
무슨 생각을 하는데, 라고 무츠키가 물었다. — 인생에 대해서. (반짝  
반짝/9) (lit. 人生に対して)

### 7.3.2. 名詞終止文における述語となった形容詞的な名詞

形容詞的な名詞も名詞終止文として多用され、韓国語でしばしば動詞  
構造化をもたらす：

こちらを恥ずかしくさせるくらい隙がなく〈情熱的〉。(冷静とB/15)  
나를 당혹스럽게 할 정도로 열정적이다. (냉정과 B/15)  
(lit. 情熱的である)

石造りのこの建物の、ひんやりしたしずけさと〈天井の高さ〉。(冷静  
とR/51-52)

석조 건물의 싸늘한 조용함과 높은 천장. (냉정과 R/49)  
(lit. 高い天井)

### 7.3.3. 名詞終止文における述語となった動詞的な名詞

「寒がり」「暑がり」という動詞的な名詞は、韓国語では、語彙レベル  
における非在グループである：

もしかして、けっこう〈寒がり〉？—うん。寒がりで、〈暑がり〉！

너, 추위 많이 타지? — 응, 추위도 많이 타고, 더위도 많이 타.  
 (lit. あんた, 寒さたくさん乗るでしょ) — (lit. うん。寒さもたくさん乗るし, 暑さもたくさん乗る)

この類型はもともと語彙的に対応する名詞が存在しない日本語の名詞を, 韓国語では動詞や形容詞など用言を用いて, 2単語以上で分析的に表現することがもたらす動詞構造である。

以下は, 接尾辞「-物」を伴う「探し物」「忘れ物」「買い物」などの動詞的な重名詞構造の非在やずれへの対応がもたらす動詞構造である:

なんか〈探し物〉? — うん, 〈忘れ物〉。(聞き書き)  
 뭐 찾는 거야? — 응, 뭐 좀 잊어 버려서.  
 (lit. 何か探してるの) — (lit. うん。何かちょっと忘れてしまって)

あのね, ちょっとお買い物の用があつて。— 〈お買い物〉? (やさしく/107)  
 음, 뭐 좀 살 게 있어서. — 살 게 있었다구?  
 (lit. 買うべきものがあつたって)

日本語の「買い物」は名詞の形をとっているため, 実際の言語場を考慮せず, 韓国語でもややもすれば, 「쇼핑」あるいは「장보기」といった名詞の形への対応だけに固執する場合は, 対照研究の場でもしばしばある。名詞を名詞とだけ対応させるのは, 語彙項目の存在と非在にのみとられた考え方であり, 真の表現様相の対照を見えにくくするものである。また, 動詞的な名詞の終止文の例として, 次のようなものも現れた:

その案, 〈いただき〉。(とかげ/46)  
 그거 좋은 생각이로군. (도마뱀/45)  
 (lit. いい考えだね)



## 7.3.4. 名詞終止文における述語となった副詞的な名詞

日本語では、副詞的な名詞による名詞終止文が、しばしば用いられ、そのほとんどは話しことばで現れる。しかし、韓国語では、副詞による終止文は安定感が欠ける印象が強く、多くの場合、用言を伴って用いられている。以下、日本語の副詞的な名詞による名詞終止文を見てみよう：

次から次に降りかかる日々の出来事なんて、気がついたら忘れてしまっているものが〈ほとんど〉。(冷静とB/11)

끝도 없이 밀려오는 새로운 일들 따윈, 거의 모두 잊어버리고 살아간다.  
(냉정과 B/11) (lit. ほとんどすべて忘れてしまっていて生きていく)

上の例は、語順を変えることで、日本語の副詞的な名詞による名詞終止文の負担を解消している。

実際の話しことばによく見受けられる副詞的な名詞「<sup>(47)</sup>まだ」による名詞終止文の例もみてみよう：

ソウルから、〈まだ?〉(一瞬の夏)

서울에서 아직 안 왔어?

(lit. まだ来ていない)

宋美玲(1995:5)は、林八龍(1987:111-112)を引用しながら、挨拶ことばにおける日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を指摘している。本稿の調査からも類似例が現れた：

ええ、〈また〉。(とかげ/36)

그래, 또 만나. (도마뱀/35)

(lit. また会おう)

## 7.4. 日本語の〈名詞終止文〉に対する韓国語の表現様相

ここでは、日本語の名詞終止文に対して、韓国語ではどのような表現

【表13】日本語の名詞終止文に対する韓国語の表現様相の選択

	日本語	韓国語 a	韓国語 b
	名詞終止文	名詞志向 (nominal-oriented) 構造←	→動詞志向 (verbal-oriented) 構造
	日本語の名詞構造	名詞構造を生かした訳	動詞構造を生かした訳
1	〇〇(美紀と祐介,デート)〇〇 ねえ,祐介! さっきの彼女,誰?	〇〇(은주,석원이랑데이트)〇〇 저,석원 씨,아까 그 여자,누구?	〇〇(은주,석원이랑데이트)〇〇 저,석원 씨,아까 그 여자,누구야?
2	なんで? ちょっと心配?	왜? 좀 걱정? 뭐,그냥.	왜? 좀 걱정돼? 뭐,그냥.
3	別に.	아,혹사 옛날 여자 친구! 아니,그냥 아는 사람.	아,혹사 옛날 여자 친구야! 아니,그냥 아는 사람이야.
4	あ,もしかして昔の彼女! ううん.ただの知り合い.	그 사람 회사 근무? 아니,아직 학생.	그 사람 회사 다녀? 아니,아직 학생이야.
5	彼女って会社勤め?	석원 씨보다 연상? 아니,아마 한 살 연하.	석원 씨보다 나이가 많아? 아니,아마 한 살 어릴 거야.
6	ううん,まだ学生.	(석원이 갑자기)	(석원이 갑자기)
7	祐介より年上?	아,나 지금부터 좀 회사. 응? 뭔가 또 일?	아,나 지금부터 좀 회사에 가 봐야 돼. 응? 또 할 일이 있는 거야?
8	いや,たぶん,一つ年下. (祐介,いきなり)	이니,좀 물건있기. 회사까지 전기? (걸음?)	이니,뭐 좀 있어 버려도 회사 회사까지 걸어서 가?
9	ちよっと,おれ,今から会社.	아니,오늘은 전철. 그럼 내일.	아니,오늘은 전철로 가려고. 그럼 내일 봐.
10	10 いや,何かまた仕事?		
11	11 いや,ちょっと忘れ物.		
12	12 会社まで歩き?		
13	13 いや,今日は電車.		
14	14 それじゃ,また明日.		
15	〇〇(美紀と姉の会話)〇〇 ちよっと,美紀,また買物?	〇〇(은주의 언니의 대화)〇〇 아,김은주! 너 또 물건 사기?	〇〇(은주의 언니의 대화)〇〇 아,김은주! 너 또 뭘 산 거야?
16	16 遠うってば,祐介からのもらい物.	아니! 석원 씨한테서 받은 물건. 어,정말로 사귄 생각?	아니! 석원 씨한테서 받은 거야. 어,정말로 사귄 생각이야?
17	17 へえ? 本気で付き合う気?	나? 그럼 진심,진심. 어떤 사람?	나 말야? 그럼 진심이야.진심. 어떤 사람이야?
18	18 私? そうよ. 本気.本気.	너무 너무 다정한 사람! 이런데 왜 오래갈 것 같은 느낌?	너무 너무 잘 해 줬! 이런데 왜 오래갈 것 같아?
19	19 どんな人?	뭐야,그거 비포는 소리? 아니,농담! 농담!	잘 안되려나?하라는 거야? 아니,농담이야! 농담!
20	20 超やさしい人!		
21	21 今度はけっこう持つって感じ?		
22	22 何なのよ,それって嫌み?		
23	23 いや,冗談! 冗談!		
24	〇〇(美紀,祐介に電話)〇〇 もしもし,祐介? まだ,会社?	〇〇(은주,석원에게 전화)〇〇 여보세요,석원 씨? 아직 회사?	〇〇(은주,석원에게 전화)〇〇 여보세요,석원 씨? 아직 회사야?
25	25 あ,アユミ? 待ってたよ,電話.	아,헤미? 기다리고 있었어,전화. 뭐? 나,은주!	아,헤미냐? 전화기다리고 있었어. 뭐? 나,은주라구!
26	26 え? 私,美紀! アユミって誰? (まずい)	헤미가 누구? (당황하는 석원)	헤미가 누구야? (당황하는 석원)
27	27 あ,美紀? 何か用?	아,은주? 근데 무슨 일?	아,은주니? 근데 무슨 일이야?
28	28 何なのよ,どういうこと?	뭐야,어떤 일?	뭐야,어떻게 된 거야?
29	29 (祐介の長い長い沈黙)	(아무말 못 하는 석원)	(아무말 못 하는 석원)
30	30 もう,最低!	정말 최저! 〇〇(석원,은주에게 전화)〇〇 은주,석원한테 전화.	정말 어쩔 그럴 수 있어! 〇〇(석원,은주에게 전화)〇〇 은주야,석원 씨한테서 전화왔는데.
31	31 美紀,祐介さんから電話.	(화난 어투로) 석원이 누구? 무서운 얼굴! 안 받을 셈?	(화난 어투로) 석원이 누구야? 저 얼굴 좀 봐! 안 받을 셈이야?
32	32 (怒った口調で)祐介ってだれ?	받을 거야.(쌀쌀맞게) 어느 분? 은주는 꽤 추위 타는 사람?	받을 거야.(쌀쌀맞게) 누구세요? 은주는 추위 많이 타자?
33	33 怖い顔! 出ないつもり?	갑자기 무슨 얘기? 계속 사고 싶다면 코트!	저 얼굴 좀 봐! 계속 사고 싶다면 코트 말아.
34	34 出るわよ。(冷たく)どちら様?	응,버버리 코트? 그게 뭐?	응,버버리 코트 말아? 그게 뭐 어쩐다구?
35	35 美紀ってけっこう寒がり?	지금 은주네 집 앞. 코트하고 석원이 은주를 기다리고 있다구.	은주는 좀 더 따뜻하게! 지금 은주네 집 앞이야.
36	36 いきなりなんの話?	코트하고 석원이 은주를 기다리고 있다구.	갑자기 무슨 얘기가? 지금 은주네 집 앞이야.
37	37 ずっとほいって言ったコート!	(은주,방긋) 석원의 바보!	계속 사고 싶다면 코트 말아. 응,버버리 코트 말아? 그게 뭐 어쩐다구? 지금 은주네 집 앞이야.
38	38 あ,バーバリのコート? それが何?		
39	39 今,君の家の前. コートと祐介が君を待ってるわけよ.		
40	40 (ニッコリ)祐介のバカ!		

様相が好まれるのかを、簡単な調査で確認してみたい。いささか極端ではあるが、ほとんどが名詞終止文からなる日本語のテキストを準備する。そしてそのテキストを論者が翻訳した a と b の 2 種類の韓国語訳を用意する。韓国語訳 a は、存在タイプの名詞は全て用いて名詞構造を可能な限り生かした翻訳であり、韓国語 b は、可能な限り動詞構造を用い、それが不可能なものはより動詞性の強い構造を用いて訳したものである。まずこの訳を韓国語母語話者 1 名に見てもらい、翻訳を確認してもらった。その上で、別の韓国語母語話者、男性と女性 2 名に、韓国語 a と b とを並列して検討してもらい、いずれがより自然であるか、判断してもらおう。日本語の名詞終止文によるテキストは、論者による作例であるが、日本語母語話者 5 名の検討を経ている。テキストと、調査の結果をまとめると次の表の通りである。

まず、名詞構造性の強い韓国語訳 a のほうが自然だという回答は、全 40 例文のうち、男性は 8 例文、女性は 7 例文あった。そのうち男性女性が重なるものは no. 26 の 1 例文のみである。動詞構造性の強い韓国語 b のほうが自然であるとした回答は、男性は 32 例文、女性は 35 例文あった。女性は 2 例文が ab いずれも自然だとしている。なお、個人差も大きい。こうした調査のさまざまな限界を考慮したとしても、韓国語の動詞志向は歴然としているといえよう。

## 8. おわりに

### 8.1. 名詞志向構造と動詞志向構造

本稿では、先行研究で言及された名詞の造語法についてだけでなく、①文の成分と、②名詞的な名詞、動詞的な名詞、形容詞的な名詞、副詞的な名詞という、名詞の性質から見た名詞の下位範疇、③語彙的な意味の比重から見た、軽名詞と重名詞、こうした 3 つを複合的な中心軸として新たに据え、かつ一定の計量も行いながら、日本語の名詞志向構造とはいかなるものか、そしてそれに対応する韓国語の動詞志向構造とはいかなるメカニズムで現れるかを考察した。ここで総括しよう。

ほとんど同様の意味を表すにも、言語によってその表現様相は異なる

であろうが、日本語と韓国語においてもそうした傾向を見出せる。本稿で見てきたように、同じような言語場にあり、ほぼ同様の意味を表すにあたって、日本語にも韓国語にも動詞構造と名詞構造の両方が共存しているが、互いに対照してみると、日本語は相対的に名詞構造を志向する傾向が著しく、逆に韓国語は動詞構造を好み、もともと名詞構造が存在しない場合も多いのである。

ちなみに、本研究は日本語を基準言語とした対照研究であった。検証の意味で、韓国語を基準言語とした、簡単な調査も行った。文の成分ごとに調査した98例の韓国語の名詞のうち、<sup>(48)</sup>3例のみが日本語で動詞構造として現れている。こうした比率を見ても、韓国語の動詞志向構造は裏づけることができよう。

既に見た文の成分ごとの動詞構造化の比率を翻訳書の例でまとめて確認しよう。日本語の名詞が、文の成分ごとに韓国語への翻訳書では名詞構造と動詞構造のいずれで現れているかという数値である：

【表14】テキストにおける日本語の名詞構造に  
対応する韓国語の名詞構造と動詞構造

	主 語		目的語		修飾語		述 語				小計
							指定詞終止文		名詞終止文		
	219		251		332		101		25		
	名詞構造	動詞構造	名詞構造	動詞構造	名詞構造	動詞構造	名詞構造	動詞構造	名詞構造	動詞構造	
名詞的な名詞	184	18	214	12	261	46	56	19	14	5	829
形容詞的な名詞	3	1	2	1	0	0	0	16	1	3	27
動詞的な名詞	9	2	16	5	9	12	5	4	1	0	63
副詞的な名詞	2	0	1	0	1	3	0	1	0	1	9
小 計	198	21	233	18	271	61	61	40	16	9	928
	90.4%	9.6%	92.8%	7.2%	81.6%	18.4%	60.4%	39.6%	64.0%	36.0%	

動詞構造化する名詞の一部をとりあげた既存の研究では、本稿で言う形容詞的な名詞と副詞的な名詞は扱われていない。のみならず、名詞的な名詞では、「近所の人」など、軽名詞と軽名詞の間に韓国語では動詞が現れるもの、また、「軽名詞+です」にほとんど限られている。さらに動詞的な名詞のうち、動詞の連用形の派生名詞と漢字語名詞、それも修飾

語及び述語になっているものに記述が偏っている。そのうえ、主語や目的語として用いられた名詞についてはほとんど関心が向けられていなかった。

しかし、上の表からもわかるように、実際の言語資料からは、主語や目的語として用いられた、いわば最も名詞らしい名詞が見せる名詞構造でさえ、韓国語にあっては動詞構造化するものが現れるのである。さらになお、主語や目的語と比較することで、修飾語や述語において韓国語の動詞構造化が著しいことがはっきりと見て取れる。単に韓国語では動詞構造が好まれるといった接近ではなく、いかなる構造において、どのような性質の名詞が、いかなる機能を司る時に、日本語の名詞構造は韓国語で動詞構造として現れるかという、いわば構造そのものが内在的に志向するメカニズムをこそ、照らさねばならないのである。本稿が名詞志向構造、動詞志向構造と呼ぶ所以である。そして何ゆえにこの2言語の対応におけるそうした動詞構造化が起こるのかというメカニズムも、本稿で見たとおりである。主として次のようなものである：

1. もともと語彙的に対応する名詞が存在しない日本語の軽名詞を、韓国語では動詞や形容詞など用言を用いて、2単語以上で分析的に表現することがもたらす動詞構造
2. 日本語の豊富な接辞を用いた派生名詞や、また複合名詞など、重名詞構造の非在やずれへの対応がもたらす動詞構造
3. 語彙的に対応する名詞が存在していても、名詞が新たな単語結合をなすとき、そうした単語結合レベルでの非在やずれへの対応がもたらす動詞構造
4. 日本語の名詞終止文、指定詞終止文、述語のない文など、文レベルでの対応がもたらす動詞構造
5. テキスト／ディスコースにおける、言語場にかかわる日本語の非明示的な要素を、韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造

日本語の名詞構造が韓国語において動詞構造として変容するのは、「青空」が「푸른 하늘」で現れる場合のように、(1)日本語の明示的な要素を韓国語でも異なった形で明示的な要素として表現する際に起こる変容と、「めがねの子」が「안경 낀 애」で現れる場合のように、(2)日本語では非明示的な要素を韓国語で明示的な要素として表現する際に起こる変容の2通りが存在する。上の①-②は語彙レベル、③は単語結合のレベル、④は文のレベル、⑤はテキスト／ディスコースのレベルで、こうした変容が起こったものである。⑤のタイプはとりわけ修飾語や述語に著しい。①-⑤はしばしば複合して現れる。

2言語の対応は、一見して非常に複雑な様相を呈する。しかしながら、語彙レベルの「存在」、「ずれ」、「非在」といった対応のあり方を、単にそうした単純な対応のみにとどまらず、単語がどのレベルで問題となっているのか、即ち、語彙レベル、単語結合レベル、文レベル、テキスト／ディスコースレベルのうちの、どこに単語が立つのか、それぞれのレベルを見据えねばならない。2言語の対応におけるこうしたレベルの交錯をも観察しつつ、文の中での実現体として、文の成分ごとに、また名詞の性質ごとに分け入ってみれば、本稿で見たように、そこには類型があり、構造化して捉えることが可能になるのである。

本稿における名詞志向構造と動詞志向構造とは、単に名詞的な表現、動詞的な表現が存在するというばかりではなく、言語場にあつてそれぞれの言語が名詞的な表現、動詞的な表現を好むという表現の上の構造的な選択、それぞれの言語に内在する構造的なあり方なのである。日本語は韓国語に比べ、構造的に名詞を志向し、韓国語は逆に動詞を志向する。総体としてそうした互いの表現様相が本稿で見たようなほどまでに異なつて現れるのである。

## 8.2. 今後の課題

本稿は日本語の名詞構造と韓国語の動詞構造の対比を素描する出発点にすぎない。調査も簡単なものにとどまっている。また、名詞構造と動詞構造が並立する場合、いったいどのようなテキスト類型で、どのよう

な分布を見せるのかといった研究もなされねばなるまい。今後はテキストやディスコースの、より大規模な調査に基づく、表現様相のさらなる精緻な記述が必要であろう。

なお、こうした対照研究は、それぞれの言語の特徴を照らすのはいうまでもなく、翻訳論への言語学的な観点からの寄与ももちろん、とりわけ直訳できない構造を構造化して扱おうとするものであるだけに、機械翻訳にあっても大きな材料を提供することになる。

こうして、対照研究は、単なる形態的な対照から、ある特定の言語場のもとで、それぞれの言語が、表現のいかなるあり方を志向し、選択するかという、表現様相総体の対照へと進まねばなるまい。

【謝辞】本稿の執筆にあたって、学部の卒業論文以来、東京外国語大学大学院の指導教官である野間秀樹先生の精緻にして熱情溢るご指導を得ました、また、伊藤英人先生をはじめとし、南潤珍、五十嵐孔一、趙義成、宋美玲といった諸先生のご指導を得ました。加えて、油谷幸利先生にもご助言を頂戴いたしました。金珍娥氏、中島仁氏、須賀井義教氏をはじめ、東京外国語大学大学院の対照言語学演習の先輩、学友の皆さんにも多くの教を頂戴いたしました。記して感謝申し上げます。

#### 参 考 文 献

##### (1) 日本語で書かれた文献

- 五十嵐孔一(1998)「現代朝鮮語の用言接続形〈-느라(고)〉について——「タクシス」と「図と地」の観点から——」『朝鮮学報』第169輯 天理：朝鮮学会
- 池上嘉彦(1991)『英文法を考える』東京：筑摩書房
- 市川孝(1976)「副用語」『岩波講座 日本語6 文法I』大野晋・柴田武編 東京：岩波書店
- 伊藤英人(1990)「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)——戮口形について——」『朝鮮学報』第137輯 天理：朝鮮学会
- 井上和子編(1983)『講座 現代の言語1 日本語の基本構造』東京：三省堂
- 林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察—日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』東京：明治書院
- 梅田博之(1982a)「韓国語と日本語—対照研究の問題点」『日本語教育』48号 東京：日本語教育学会
- 梅田博之(1982b)「朝鮮語の語彙Ⅱ 意味に関する問題」『講座 日本語学12 外国語との対照Ⅲ』寺村秀夫他編 東京：明治書院

- 梅田博之・村崎恭子（1982）「現代日本語の文構造」『講座 日本語学10 外国語との対照Ⅰ』寺村秀夫他編 東京：明治書院
- 小川芳男他編（1989）『英語教授法辞典 新版』東京：三省堂
- 奥津敬一郎（1978）『「ボクハ ウナギダ」の文法—ダとノ』東京：くろしお出版
- 生越直樹（1984）「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係」『日本語教育』52号 東京：日本語教育学会
- 生越直樹（2002）「3 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方「きれいな花！」タイプを中心に」『シリーズ言語科学4 対照言語学』生越直樹編 東京：東京大学出版会
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編（1996）『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京：三省堂
- 影山太郎（1989）「形態論・語形成論」『講座日本語と日本語教育 第11巻 言語学要説（上）』東京：明治書院
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』東京：ひつじ書房
- 影山太郎（2002）「形態論の進展」『日本の言語学』（『言語』30周年記念別冊）東京：大修館書店
- 柏谷嘉弘（1973）「「形容動詞」の成立と展開」『品詞別 日本文法講座4 形容詞・形容動詞』鈴木一彦・林巨樹編 東京：明治書院
- 菅野裕臣（1981）『朝鮮語の入門』東京：白水社
- 菅野裕臣他（1988）『コスモス朝和辞典』東京：白水社
- 金珍娥（2002）「日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト」『朝鮮学報』第183輯 天理：朝鮮学会
- 金善姫（1993）「韓国語の属格助詞「ui」の意味機能——日本語の「の」との対照研究——」『対照研究——属格について』つくば：筑波大学つくば言語文化フォーラム
- 権在淑（1994）「現代朝鮮語の接統形Ⅲ-서について」『朝鮮学報』第152輯 天理：朝鮮学会
- 國廣哲彌（1967）『ELEC 言語叢書 構造的意味論—日英両語対照研究』東京：三省堂
- 久野暲（1978；1983）『談話の文法』東京：大修館書店
- グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』東京：くろしお出版
- 国立国語研究所（1997）『日本語と外国語との対照研究Ⅳ 日本語と朝鮮語』下巻 研究論文編 東京：くろしお出版
- 斉藤倫明・石井正彦編（1997）日本語研究資料集 第1期 第13巻『語構成』東京：ひつじ書房
- 佐伯哲夫（1976）『語順と文法』大阪：関西大学出版
- 阪倉篤義（1974；1976）『改稿 日本文法の話』東京：教育出版



- 佐久間鼎(1983;1992)『現代日本語の表現と語法 増補版』東京:くろしお出版
- 鈴木重幸(1972;1982)『日本語文法・形態論』東京:むぎ書房
- 鈴木英夫(1972)「指定の助動詞」『品詞別 日本文法講座7』鈴木一彦・林巨樹編 東京:明治書院
- ソ連科学アカデミー(1990)『ロシア語文法Ⅱ』菅野裕臣抄訳 東京外国語大学講義資料 未公刊
- 宋美玲(1998)「現代日本語と現代韓国語における時間表現の対照研究——「過去の事象」における話者の時間解釈を中心に——」『第149, 150回朝鮮語研究会発表要旨集』東京:朝鮮語研究会
- 高橋太郎(1994)『動詞の研究—動詞の動詞らしさの発展と消失』東京:むぎ書房
- 田窪行則編(1994)『日本語の名詞修飾表現—言語学・日本語教育・機械翻訳の接点』東京:くろしお出版
- 田野村忠温(1993)「「のだ」の機能」『日本語学』第12巻 第11号 東京:明治書院
- 玉村文郎(1975;1997)「和語は造語力が弱いのか」齊藤倫明・石井正彦編(1997)所収
- 寺村秀夫(1982;1997)『日本語のシンタクスと意味 第Ⅰ巻』東京:くろしお出版
- 寺村秀夫(1984;1999)『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』東京:くろしお出版
- 時枝誠記(1950;1978)『日本文法 口語編』東京:岩波書店
- 永野賢(1958;1986)『学校文法概説』東京:共文社
- 西山佑司(1993)「「NP1のNP2」と“NP2 of NP1”」『日本語学』第12巻 第11号 東京:明治書院
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書1「は」と「が」』東京:くろしお出版
- 野田春美(1993)「「のだ」と終助詞の「の」の境界をめぐって」『日本語学』第12巻 第11号 東京:明治書院
- 野間秀樹(1988)「〈하룻다〉の研究—現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって—」『朝鮮学報』第129輯 天理:朝鮮学会
- 野間秀樹(1990)「現代朝鮮語の名詞分類——語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』第135輯 天理:朝鮮学会
- 野間秀樹(1993)「現代朝鮮語の対格と動詞の統辞論」『言語研究Ⅲ』東京:東京外国語大学語学研究所
- 野間秀樹(1997)「朝鮮語の文の構造について」『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅳ』東京:くろしお出版
- 野間秀樹(2000;2002)『至福の朝鮮語』東京:朝日出版社
- 橋本進吉(1934)「品詞の分類」服部四郎他編(1979)所収

- 橋本進吉（1935）「國語の形容動詞について」服部四郎他編（1979）所収  
 橋本進吉（1948；1967）『国語法研究』東京：岩波書店  
 服部四郎他編（1979）『日本の言語学 第4巻 文法Ⅱ』東京：大修館書店  
 浜之上幸（1991）「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』第138輯  
 天理：朝鮮学会  
 ビッツィコーニ、バルバラ（1997）『待遇表現から見た日本語教科書——初級教科  
 書五種の分析と批判——』東京：くろしお出版  
 日野資純（1973）「副助詞と係助詞」『品詞別 日本文法講座9 助詞』鈴木一彦・  
 林巨樹編 東京：明治書院  
 姫野昌子（1993）「日本語教育における「の」の指導」『日本語学』第12巻 第11  
 号 東京：明治書院  
 町田健（1989）『日本語の時制とアスペクト』東京：アルク  
 松下大三郎（1928；1974）『改撰標準日本文法』東京：中文館書店  
 松下大三郎（1930；1977）『増補校訂標準日本語口語法』徳田政信編 東京：勉誠  
 社  
 マテジウス、ビレーム（1986）『マテジウスの英語入門——対照言語学の方法』千  
 野栄一・山本富啓訳 東京：三省堂  
 三尾砂（1942；1995）『話言葉の文法 言葉遺篇』東京：くろしお出版  
 三上章（1953；1987）『現代語法序説』東京：くろしお出版  
 三上章（1955；1981）『現代語法新説』東京：くろしお出版  
 三上章（1963）『日本語の構文』東京：くろしお出版  
 水谷静夫（1951）「形容動詞辨」服部四郎他編（1979）所収  
 南不二男（1974）『現代日本語の構造』東京：大修館書店  
 宮崎和人（2000）「ムードとモダリティ」『日本語学』第19巻 第5号 東京：明  
 治書院  
 宮地裕（1984）「倒置考」『日本語学』第3巻 第8号 東京：明治書院  
 村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』東京：ひつじ書房  
 森田良行（2002）『日本語文法の発想』東京：ひつじ書房  
 森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型』東京：アルク  
 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩（2000；2002）『日本語の文法3 モダリティ』東  
 京：岩波書店  
 安田喜代門（1928）「品詞」服部四郎他編（1979）所収  
 山田孝雄（1908；1943）『日本文法論』東京：寶文館  
 山田孝雄（1936；1951）『日本文法学概論』東京：寶文館  
 山田佳紀（1976）「4 体言」『岩波講座 日本語6 文法Ⅰ』大野晋・柴田武編  
 東京：岩波書店  
 油谷幸利（2003）『日韓対照言語学入門』東京：白帝社

- 油谷幸利, 門脇誠一, 松尾勇, 高島淑郎編 (1993; 1997) 『朝鮮語辭典』東京: 小学館
- 吉澤義則 (1932) 「所謂形容動詞に就いて」服部四郎他編 (1979) 所収
- 渡辺実 (1971) 『国語構文論』東京: 塙書房
- 渡辺実 (1976) 「品詞分類」『岩波講座 日本語 6 文法 I』大野晋・柴田武編  
東京: 岩波書店

## (2) 韓國語で書かれた文献

- 강은국 (1993) “조선어문형연구” 서울: 서광학술자료사
- 권재일 (1985) “국어의 복합문 구성 연구” 서울: 집문당
- 권재일 (1992) “한국어통사론” 서울: 민음사
- 김광해 (1993) “국어 어휘론 개설” 서울: 집문당
- 김영희 (1998) “한국어 통사론을 위한 논의” 서울: 한국문화사
- 국립국어연구원 (1999) “표준국어대사전” 서울: 두산동아
- 남기심, 고영근 (1985) “표준국어문법론” 서울: 탐출판사
- 남길임 (2001) “‘이다’ 구문 연구” 서울: 연세대학교 대학원 국어국문학과 박사 학위논문
- 남윤진 (2000) “현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구” 서울: 태학사
- 노마 [野間秀樹] (1996a) ‘현대한국어의 대우법 체계’ “말” 21집 서울: 연세대학교 연세어학원 한국어학당
- 노마 [野間秀樹] (1996b) ‘한국어 문장의 계층구조’ “언어학” 19호. 서울: 한국언어학회
- 노마 [野間秀樹] (2002a) “한국어 어휘와 문법의 상관구조” 서울: 태학사
- 노마 [野間秀樹] (2002b) ‘한국어 단어결합론의 심화를 위하여’ “國語學” 39집. 서울: 태학사
- 서울대학교 사범대학 국어 교육 연구소 (1996; 2001) “고등학교 문법” 서울: 대한교과서
- 서울大學校 語學研究所 黃燦鎬, 李李順, 張奭鎭, 李吉鹿 (1988) “韓日語 對照 分析” 서울: 明志出版社
- 宋美玲 (1995) ‘韓·日兩國語에 나타난 表現構造의 一考察—『雪國』의 翻譯文을 中心으로—’ “里門論叢” 第15輯. 서울: 韓國外國語大學校 大學院
- 야곱슨, R. (1989) 권재일 역 “일반언어학이론” 서울: 태학사
- 연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) “연세 한국어사전” 서울: 두산
- 유영난 (1991) “번역이란 무엇인가” 서울: 태학사
- 이은정 (1994) “국어학·언어학 용어사전”
- 이홍식 (1996) “국어 문장의 주성분 연구” 서울: 月印
- 이희자 (1998) “사전식 텍스트분석적 국어 조사의 연구” 서울: 한국문화사

- 趙義成 (1997) ‘현대한국어의 단어결합에 대하여’ 『朝鮮學報』 第163輯. 天理：  
朝鮮學會
- 조희철 (1999; 2000) “진명 뉴밀레니엄 일한사전” 서울: 진명출판사
- 최정화 위음 (1998) “통역번역입문” 서울: 신문사
- 洪宗善 (1990) “國語體言構文의 研究” 서울: 高麗大學校 民族文化研究所

(3) 英語で書かれた文献

- Hinds, John (1986; 1999) *Situation vs. Person Focus* 東京: くろしお出版
- Lee, Hyun Bok (1989) *Korean Grammar*. Oxford: Oxford University Press
- Manning, Christopher (1989) “Analyzing the Verbal Noun: Internal and External Constraints” *Japanese/Korean Linguistics* 3. Choi, Soonja (ed). Los Angeles: University of California
- Martin, S. E. (1975) *A Reference Grammar of Japanese*. New Have: Yale University Press
- Martin, S. E. (1992) *A Reference Grammar of Korean*. Tokyo: Charles E. Tuttle Company
- Ramstedt, G. J. (1939) *A Korean Grammar*. (=MSFOu 82). Helsinki: Suomalais-Ugrilainen Seura
- Ross, John Robert (1973) *A Fake NP Squish. New Way of Analyzing Variation in English*: Washington, D. C.: Georgetown University Press
- Sohn, Ho-min (1994) *Korean*. London: Routledge

●用例を収集した日本語の言語資料

\*\*は7.3. の名詞終止文の計量に各々冒頭より100文を抽出した資料。

- 赤川次郎 (1987) 『寝過ごした女神』東京: 光文社\*\*
- 赤川次郎 (1991) 『ふたり』東京: 新潮社
- 安宇植 (2002) 『隣の家の女』『シックスストーリーズ 現代韓国女性作家短編』  
東京: 集英社
- 五木寛之 (1994; 1996) 『Lesson』東京: 新潮社
- 内館牧子 (1998; 2000) 『必要のない人』東京: 角川書店\*\*
- 江國香織 (1999; 2001) 『冷静と情熱のあいだ Rosso』東京: 角川書店
- 尾崎豊 (1992) 『普通の愛』東京: 角川書店
- 乙武洋匡 (1998) 『五体不満足』東京: 講談社
- 鎌田敏夫 (1998) 『29歳のクリスマス』東京: 新潮社\*\*
- 北川悦吏子 (1999) 「キュートな天才, 三谷幸喜さんのこと」『ボーイフレンド』  
東京: 角川書店
- 北川悦吏子 (1998; 2000) 『ロングバケーション』東京: 角川書店
- 北川悦吏子 (1999) 『冷たい雨』『冷たい雨』東京: 角川書店\*\*
- 北村薫 (1992; 1999) 『六の宮の姫君』東京: 東京創元社

- 小林聡美 (2001) 『マダム小林の優雅な生活』東京：幻冬舎  
 酒井順子 (1997) 『トイレは小説より寄なり』東京：集英社  
 鷺沢めぐむ (1996；1997) 『大統領のクリスマスツリー』東京：講談社  
 鷺沢めぐむ (1994) 『愛している』東京：角川書店  
 椎名誠・東海林さだお (2002) 『ビール うぐうぐ対談』  
 篠田節子 (1999) 『死神』東京：文藝春秋  
 清水志穂 (1998) 『君を待つあいだに』東京：幻冬舎  
 田口ランディ (2001；2003) 『コンセント』東京：幻冬舎  
 辻仁成 (1992) 『ピアノシモ』東京：集英社  
 野島伸司 (1991) 『101回目のプロポーズ』東京：角川書店\*\*  
 乃南アサ (1992) 『5年目の魔女』東京：幻冬舎  
 原田宗典 (1993) 『しょうがない人』東京：集英社  
 東野圭吾 (1998；1999) 『秘密』東京：文藝春秋\*\*  
 三谷幸喜 (1998) 『オンリー・ミー 私だけを』東京：幻冬舎  
 三谷幸喜 (2000) 『年下の人』『気まずい二人』東京：角川書店\*\*  
 宮部みゆき (2001) 『R. P. G.』東京：集英社  
 村上春樹 (1999) 『七番目の男』『氷男』『レキシントンの幽霊』東京：文藝春秋  
 村上龍 (1991；1999) 『トパーズ』『受話器』『サムデイ』『トパーズ』東京：角川書店  
 群ようこ (2000) 『挑む女』東京：文藝春秋  
 森瑤子 (1988；1990) 『日曜の孤独』『あなたに電話』東京：中央公論社\*\*  
 森瑤子 (1991；1999) 『パーティーのあとで』『別れ上手』東京：角川書店  
 森瑤子 (1993) 『少し酔って』東京：角川書店  
 山田詠美 (2001) 『姫君』東京：文藝春秋  
 山田詠美 (2002) 『マグネット』『マグネット』東京：幻冬舎\*\*  
 山田詠美 (2000；2003) 『A2Z』東京：講談社  
 山本文緒 (1997) 『愛はお財布の中』『みんな行ってしまう』東京：角川書店  
 柳美里 (1998) 『家族の標本』東京：角川書店  
 吉村達也 (2002) 『やさしく殺して』東京：集英社  
 吉本ばなな (2000；2002) 『ハネムーン』東京：中公文庫  
 綿矢りさ (2001；2002) 『インストール』東京：河出書房新社  
 周防正行 (1996) 『Shall We ダンス?』インターネット上のシナリオ\*\*  
 (1995) 『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』新潮社。(第二次大戦後の91作品を使用。テキストファイル化し、結合すると19,095KB)。

●用例を収集した韓国語の言語資料

\*は7.3.の名詞終止文の計量に各々冒頭より50文を抽出、\*\*は100文を抽出した資

料。

- 가백현 (2002) ‘도끼’ “現代文學제 48권 제 4 호” 서울: 현대문학\*
- 권정현 (2002) ‘덧’ “現代文學제 48권 제 4 호” 서울: 현대문학\*
- 김계환 (2002) ‘몽유도원도’ “現代文學제 48권 제 4 호” 서울: 현대문학\*
- 김지현 (2002) ‘털’ “現代文學제 48권 제 4 호” 서울: 현대문학\*
- 김현주 (2002) ‘물속의 정원사’ “現代文學제 48권 제 5 호” 서울: 현대문학\*
- 다구치 란디 (2001) 오희옥 역 “콘센트” 서울: 한숲출판사
- 백지연 (1998) “앵커는 닳을 내리지 않는다” 서울: 문예당\*\*
- 서문경 (2002) ‘상고될라 가는 길’ “現代文學제 48권 제 5 호” 서울: 현대문학\*
- 서진규 (1999) “나는 희망의 증거가 되고 싶다” 서울: 북하우스\*
- 야마다 에이미 (2000) 이유향 역 “A2Z / 야마다 에이미 소설” 서울: 태동출판사
- 야마다 에이미 (2003) 김옥희 역 “공주님” 서울: 민음사
- 양귀자 (1992) ‘숨은 꽃’ “이상문학상 수상작품집 16” 서울: 문학사상사
- 양귀자 (1998) “모순” 서울: 살림\*\*
- 에쿠니 가오리 (2000; 2002) 김난주 역 “냉정과 열정사이 Rosso” 서울: 소담출판사
- 와타야 리사 (2002) 김난주 역 “인스톨” 서울: 현대문학북스
- 윤대녕 (1996) ‘천지간 (天地間)’ “이상문학상 수상작품집 20” 서울: 문학사상사
- 요시모토 바나나 (2000; 2003) 김난주 역 “하나문” 서울: 민음사
- 이수진 (1995; 1996) “재즈색스” 서울: 도서출판 모아\*
- 조성기 (1991) ‘우리 시대의 소설가’ “이상문학상 수상작품집 15” 서울: 문학사상사
- 조창인 (2000) “가시고기” 서울: 밝은 세상\*
- 차현숙 (1997) “나비, 봄을 만나다” 서울: 문학동네\*\*
- 최수철 외 (1993) ‘얼음의 도가니’ “이상문학상 수상작품집 17” 서울: 문학사상사
- 최윤 외 (1994) ‘하나코는 없다’ “이상문학상 수상작품집 18” 서울: 문학사상사
- 하성란 (1999) “옆집 여자” 서울: 창작과비평사
- 히가시노 게이코 (1999) 이선희 역 “비밀” 서울: 도서출판 창해
- 강재규 (1999) “쉬리” (인터넷上のシナリオ) \*\*
- 신동환, 오승욱, 허진호 (1998) “8 월의 크리스마스” (인터넷上のシナリオ) \*\*
- 이정향 (1998) “미술관 옆 동물원” (인터넷上のシナリオ) \*\*
- 한국과학기술원 (KAIST) Concordance Program. KCP 한국어 용례 색인 (kaist corpus). 300Mbyte. 어절 단위 색인. <http://morph.kaist.ac.kr/kcp/>. 2002年6-9月

● 翻訳書の計量調査に用いた日本語の言語資料

江國香織 (1994; 2002) 『きらきらひかる』 東京: 新潮社

- 小池真理子(1999)『恋』東京：早川書房  
 篠田節子(1997; 1999)『女性たちのジハード1』東京：集英社  
 辻仁成(1999; 2001)『冷静と情熱のあいだ Blu』東京：角川書店  
 吉本ばなな(1996; 1999)『新婚さん』『とかげ』東京：新潮社

●翻訳書の計量調査に用いた韓国語の言語資料

- 고이케 마리코(1996) 오근영 역 “사랑” 서울：소담출판사  
 시노다 세츠코(1999) 이정환 역 “여자들의 지하드1” 서울：자유문학사  
 요시모토 바나나(1999; 2002) 김옥희 역 “도마뱀” 서울：민음사  
 에쿠니 가오리(2001; 2002) 김난주 역 “반짝반짝 빛나는” 서울：소담출판사  
 츠지 히토나리(2000; 2002) 양역관 역 “냉정과 열정사이 Blu” 서울：소담출판사

註

- (1) 本稿においては、名詞的な性質を持っているもの、即ち名詞的なものは、概ね名詞(noun)と見ることになる。つまりいわゆる体言(nominal)と呼ばれる存在を概ね名詞と見ることになるわけである。したがって本稿のテーマにも、「名詞志向構造」というより「体言志向構造」と呼ぶべきところであるが、本稿では体言を名詞で代表させて nominal-oriented structure を「名詞志向構造」と呼ぶことにする。同様に、用言(verbal)についても、動詞(verb)で代表させて「動詞志向構造(verbal-oriented structure)」の名称を用いることにする。
- (2) あることがらを言語上でいかに表現するかという、表現のありかたの総体を「表現様相」と呼ぶことにする。
- (3) 野間秀樹(1990: 3, 43)では、「実際の言語的な〈場〉」を、河野六郎を引きながら、「言語場」と呼んでいる。本稿では同じ概念で〈言語場〉という術語を用いることにする。
- (4) 林八龍(1995: 268)は國廣哲彌(1967)を引用しながら、「表現構造」という術語について、「表現の相違から統語構造の相違を差し引いた後になお残るもの」と定義している。こうした「表現構造」なども含んだ、表現のあり方の総体を、本稿では「表現様相」と呼んでいる。
- (5) 林八龍(1995: 270-278)は、日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現の類型として次の5つを挙げる。①漢語名詞による述語文の場合。②固有語動詞の名詞形による述語文の場合。③ある名詞の意味が実現する時、動詞表現による具体性が要求される場合。④造語上の特徴による場合。⑤対象的把握と状況的把握。  
 しかし、例えば、①の「漢語名詞による」や②「固有語動詞の名詞形」といったグループ分けは、ほかならぬ④「造語上の特徴による場合」でもある

- だろう。また③の「ある名詞の意味が実現する時、動詞表現による具体性が要求される場合」というのは、「日本語の名詞表現が韓国語の動詞表現になる場合」というのと、ほとんど同義であり、韓国語では動詞表現になるという結果を表現しただけであって、実は日本語のいかなる場合に韓国語では「動詞表現による具体性が要求される」のかこそが追究されねばないのである。
- (6) 林八龍 (1995) の論拠は 6 冊の日本語教科書であり、宋美玲 (1995: 4-5) は川端康成の『雪国』とその翻訳から「名詞表現と動詞表現」に関する 11 例、「縮約・省略表現と具体・叙述表現」で 3 例を提示するに留まっており、生越直樹 (2002) は作例のみに依拠している。
- (7) 「直ぐが善い」における「直ぐが」を主語と認めるべきかについては議論の余地のあるところであるが、実際の文においてこうした構造で現れた場合は、本稿の考察の対象とする。
- (8) 単語結合 (*slovosochetanie*) の定義については趙義成 (1997: 2-3) 参照。ソ連科学アカデミー (1990) は「一致、支配、接合という従位的結びつきを基礎として作られる統辞論的構造」とする。
- (9) 村木新次郎 (1991: 204) によると、機能動詞とは、「ににおいがする」の「する」のように、「実質的な意味が希薄で、述語形式をつくるための文法的な機能をはたしている」動詞である。野間秀樹 (1993: 148) も同様に、語彙的な意味を名詞などに負わせて、動詞自体は文法的な機能だけを受け持つ動詞を機能動詞とし、その典型的な例として「하다」をあげている。本稿では、「する」や「하다」のような用言を「機能用言」と呼び、実質的な語彙的な意味を持つ用言を「実質用言」と呼ぶことにする。
- (10) 亀井孝他 (1996: 1370) の「用言に属する品詞」を参照。
- (11) ある言語現象について 2 言語を対照するとき、いずれを基準言語とするかは、恣意的であってはなるまい。A 言語に 2 つの型が存在し、B 言語には 1 つの型しか存在しないとき、基準言語は A 言語に置くのがよい。A 言語に 2 つの型が豊富に現れ、B 言語では 1 つの型に偏っているようであれば、これもまた基準言語は A 言語とするのが、正確な記述をもたらしてくれるであろう。また、基準言語における調査は、対照言語における調査で検証されることが望ましい。
- (12) 文体の名称は노마 [野間秀樹] (1996a: 16-18, 2002a: 73-74) による。
- (13) 日本語については、福岡照子氏、吉岡美穂氏、安平次恵氏、皆川裕樹氏、松澤明子氏、山崎玲美奈氏、澤登まりや氏、安藤梢氏、韓国語については、ソウル方言話者である申明直先生、嚴基珠先生、李信叟氏、安垠姫氏、金珍娥氏の、またそれ以外にも孫貞慧氏、朴恵英氏、林田氏のご協力を得た。記して感謝申し上げます。いずれも 20 代後半から 40 代前半までの方々である。
- (14) ただし、本稿では、「水が飲みたい」「彼のことが好きだ」「韓国語が話せ



る」などのタイプは対象外にする。

- (15) 「主語＋述語」の組み合わせを単語結合と見ない見解もあるが、本稿では趙義成(1997)や노마 [野間秀樹](2002b) にならって単語結合と見做すことにする。
- (16) 話しことばでも多用される日本語の「青空」には、例えば「창공」や「청공」という主として書きことばで多用される名詞が韓国語にも存在する。一方で日本語にもまた書きことばでは「蒼空」といった名詞が存在はする。こうした単語群の文体的な使用域(register)の違いも考慮に入れると、例えば「青空」と「창공」の対応などは存在グループというより、非在グループ、あるいはずれグループと考えるのがむしろ妥当であろう。
- (17) おふくろの顔に, 奇妙に満足げな(あかるさが) ひろがる。(きらきら/92)  
어머님의 얼굴에, 묘하게도 만족스런 반가움이 퍼진다. (반짝반짝/94)
- (18) 野間秀樹(1990:19-21), 노마 [野間秀樹](2002a:287-289) 参照。不活動体名詞・可算名詞のうち主に具体物を表すものを具体名詞(concrete noun)とする。
- (19) 本稿では、動詞からの派生名詞のみならず、動詞の名詞形も便宜上、名詞と呼んでおく。
- (20) なお、林八龍(1995)など先行研究では、目的語になるこの類型は、類型として対象化されておらず、「造語上の特徴による場合」の名詞表現の例として「土俵入りを見る」の1例が挙げられているのみである。
- (21) 「きれいな顔をしている」のような結合において、「する」形が用いられないとするならば、「する」ではなく「している」形で単語結合をなすことになる。だとすると、アスペクト形も単語結合の構成要素として認める必要がある。議論の余地のあるところである。
- (22) 永野賢(1958:81, 124-126) 参照。副助詞とは、「いろいろな語や文節について、それらに関する限定・選択・並列・強意・提示・程度など、話し手がどういふふうに掲っているかを示す役わりのもの」である。「ぐらい、だけ、ばかり、まで」などがある。副助詞という名称は、山田孝雄(1908)によって始められたものである。
- (23) 表9の計量調査では、修飾語における韓国語の動詞構造の61例のうち、75%にのぼる46例が、名詞的な軽名詞による、日本語の非明示的な要素を韓国語が言語化しようとするのがもたらす動詞構造であった。
- (24) 例えば、「めがねの子」という名詞構造は、もし「聞き手のめがねを壊した子」のような、ある特殊な言語場における話し手と聞き手の共通の既知情報がある場合は、例えば, 어제 네 안경 꺾던 애 기억나? のような訳も考えられるが、そうした場合も動詞構造であることには変わらない。
- (25) 野間秀樹(1990:13-16), 노마 [野間秀樹](2002a:279-283) 参照。活動

体名詞のうち、与格で〈-더러〉をとりえ、名数詞に〈-마리〉をとらないものを人間名詞 (human noun) とする。

- (26) 日本語の内部で、「名詞+の+ある／いる+ところまで」の動詞構造と「名詞+の+ところまで」の名詞構造のうち、どちらが多用されるかの一端を、『新潮の100冊』の昭和戦後作品から見ると、動詞構造「名詞+の／が+ある／いる+ところ／処／所まで」に言い換え可能な名詞構造で現れたのは64例で、動詞構造で現れた例は、「芋のあるところまで」といった1例のみであった。この結果から少なくとも〈名詞+の+ところまで〉の構造にあっては、日本語内部では圧倒的に名詞構造が志向されることがわかる。
- (27) 試みに、修飾語として用いられる日本語の「雨」を『新潮の100冊』の昭和戦後作品を調査すると、「雨の日」は、42例、これに対して「雨の／が降る／ふる日」は7例が見出せる。他の動詞の可能性を考えたとしても、日本語内部においても動詞構造よりは名詞構造がより好まれることが伺える比率であろう。
- (28) 例えば、「〈帰りが〉遅い」のように、「帰り」が主語として用いられる場合、韓国語でも「귀가」という名詞を用いることで名詞構造を維持することもできよう。
- (29) 野間秀樹 (1990: 17-19), 노마 [野間秀樹] (2002a: 285-287) 参照。不活動体名詞のうち〈-에서〉がついて、あることがらが行われる場所、あるいは空間的な起点を表し、〈-로／-으로〉がついて主として方向を表すものを場所名詞 (place noun) とする。
- (30) ただし、日本語の「いつもの彼」「いつもの永沢さん」のように、被修飾語が、人称代名詞 (彼) や氏名 (永沢さん) の場合は、韓国語でも、例えば、「평소의 그 사람」「평소의 나가사와 씨」のように名詞構造で現れる。
- (31) 節の構造をめぐる術語については、韓国語について論じた노마 [野間秀樹] (2002a) を基本に据え、日本語についても概ねこれに倣う。
- (32) 남길임 (2001: 13) を参考に整理してみると、韓国語では「名詞+이다」を주시경 (1910), 이희승 (1949) は「-이다」を形態素の資格を持たない媒介母音の一種と見ており, 정인승 (1949) は助詞, 이승녕 (1954) は指定格の語尾, 남기심, 고영근 (1984) は叙述格の助詞と見る。최현배 (1938) をはじめとし, 정열모 (1948), 허용 (1983) は術語上の違いはあるが、指定詞と見ている。
- (33) 日本語でも指定詞の術語を用いる例としては、亀井孝他 (1996: 658) がある。
- (34) 노마 [野間秀樹] (2002a: 293) 参照。格語尾のつかぬ格。朝鮮語では菅野裕臣他 (1988; 1999: 1019-1021) は「語幹格」とする。「不定格」、あるいは「絶対格」とも呼ばれる。松下大三郎 (1930: 196) の「無格」も参照。

- (35) 노마 [野間秀樹] (2002a:23-24) では、名詞文を述語性の有無により「述語文」と「非述語文」と捉えている。本稿では、形態に着目し、「指定詞終止文」と「名詞終止文」と区別することとする。
- (36) 林八龍 (1995:269, 273) は、日本語の「外は雨です」「毎日雨ですか」という名詞表現は、韓国語では「外は雨が降っています」「雨が降りますか」という動詞表現のほうが、より自然であると指摘している。
- (37) 「大雨だよ。」「大雪だった。」という日本語の名詞表現が、韓国語では動詞表現で現れやすいという宋美玲 (1995:4) の指摘はこの類型に関するものである。
- (38) 「좋은 날씨다」(lit. いい天気だ)よりは、「날씨가 좋다」(lit. 天気がいい)のほうがより自然であるという梅田博之 (1982:35) の指摘は、この類型に関するものである。また林八龍 (1995:277) は、日本語の「アー！ いい風！」などの例を取り上げながら、韓国語では「아—! 시원한 바람 (이다).」という名詞表現より「아—! 바람 (참) 시원 하다.」という動詞表現のほうが、より自然であると述べている。さらに、生越直樹 (2002) は、「きれいな花！」タイプを中心にし、日本語と韓国語における連体修飾表現に注目している。
- (39) 表面的には同じ構造の文であっても、それが第三者を問題にして語る言語場と、聞き手を問題にして語る言語場とでは、韓国語における表現様相が異なって現れることもあり得る。例えば、次のような例を見よう：
- あんたも〈変な人〉ね。(変な人=聞き手) 너도 참 이상해. (lit. 変ね)  
 彼、ちょっと〈変な人〉なのよ。(変な人=第三者) 그 사람 좀 이상한 사람이야. (lit. 変な人なの)
- 上の例のように「第三者を問題にしている場合」は、韓国語でも名詞構造で現れうる。言語場において完全に使い分けしているわけではないが、そういう傾向があることは言えるだろう。
- (40) 例えば、日本語の「自分の若さを気にしていた」という名詞構造は、韓国語でも「자신의 젊음을 의식했다」といった名詞構造で現れる。
- (41) 菅野裕臣 (1988:1018), 노마 [野間秀樹] (1997:107) 参照。補助的な用言を含む2単語以上からなる文法的な形を分析的な形と呼ぶ。
- (42) 노마 [野間秀樹] (2002a:30-32) は、「하는 것이다」を、拡大節を内包した「冠形節(連体節)+不完全名詞+指定詞」という構造の、分析的な mood 語形であるとする。
- (43) 野間秀樹 (2000:59) はこれを聞き返しの語尾と呼ぶ。聞き返しの機能と、質問に対し答える機能を併せ、ここでは応答語尾とする。
- (44) 日本語の名詞終止文は、翻訳書では韓国語として不自然な場合も名詞構造で訳される場合が多く、原文の日本語の構造に影響されやすい点が見受けら

れた。したがって、本稿では、より精密な調査のため、日本語と韓国語、それぞれの言語の中で名詞終止文がどのくらい用いられるかを検証することにする。

- (45) 本稿末尾の言語資料一覧に\*と\*\*で表示。
- (46) 金珍娥 (2002: 77-83) は、例えば、「先生、だれ?」「日本語。」「お名前は。」「ゼミだけ。」「まだまだ。」などのように、述部を伴わず、発話を終了する「述部のない発話文」が日本語では、韓国語に比べ、2倍以上の割合で出現すると指摘している。本稿の調査結果とも相通じる興味深い事実だと言えよう。
- (47) 『新潮の100冊』の昭和戦後作品を走査した。その結果、「まだ」が用いられた全3,366例のうち、副詞的な名詞「まだ」が名詞終止文として用いられた例は11例で、終助詞名詞終止文、例えば、「まだよ。」「まだか?」などは24例あった。これら「まだ」の名詞文35例すべては会話文で現れている。名詞終止文は話しことばで著しいことがここでも窺える。
- 韓国語では、카이스트 (KAIST) で日本語の「まだ」に該当する「아직」を走査すると、注目すべきことに、全3,371例のうち、名詞終止文に用いられた「아직」は1例も現れなかった。韓国語では、「아직」という副詞は、その単独では、述語として機能しにくく、用言を必要とすることが見て取れる。日本語の副詞的な名詞が韓国語で動詞構造化するという典型だといえよう。指定詞述語文も3例、応答語尾を持つものも4例しか見えない。「まだ」名詞終止文の韓国語への対応を見てみると、主に、「아직 멀었어요 (lit. まだ遠かったです=まだ足りません)」「아직 안 왔어요 (lit. まだ来ていません)」「아직 안 했어요 (lit. まだやっていません)」「아직 안 됐어요 (lit. まだできていません)」のように動詞構造で現れた。
- (48) 하성난 (1999) “옆집여자” の50文と、その翻訳である安宇植 (2002) を走査した。